

第二十一回 貴族院議事速記録第十號

明治三十八年二月十日(金曜日)

午前十時十三分開議

議事日程 第十號 明治三十八年二月十日

午前十時開議

- 第一 侯爵伊達宗徳君請暇ノ件 第一讀會
- 第二 古物商取締法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第四 質屋取締法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第六 北海道一級町村及二級町村ヲシテ租稅外國庫歲入ヲ徵收セシムル法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第八 地租條例中改正法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第十 不動産登記法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第十二 輸入原料砂糖戻稅法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第十三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第十四 砂糖消費稅法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第十五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第十六 鑛業法案(政府提出案) 第一讀會
- 第十七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第十八 遠洋漁業獎勵法改正法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第十九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第二十 工場抵當法案(政府提出案) 第一讀會
- 第二十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第二十二 鑛業抵當法案(政府提出) 第一讀會

第二十三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第二十四 外國ニ於ケル銀行事業ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(特別委員長報告)

第二十五 北海道拓殖銀行法中改正法律案(政府提出) 第二讀會

第二十六 日本勸業銀行法中改正法律案(政府提出) 第二讀會

第二十七 災害地地租免除ニ關スル法律案(衆議院提出) 第一讀會

第二十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第二十九 國有土地森林原野下戻申請期間ニ關スル法律案(衆議院提出) 第一讀會

第三十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第三十一 松村脩平君選舉爭訟ノ件(資格審査委員長報告) 會 議

○議長(公爵徳川家達君) 本日ノ議事日程ニ移リマス前ニ諸君ニ御諮リ致スコトガゴザイマス、會期モ迫リ切迫シテ參リマシタカラ、法案ノ配付後定規ノ日數並ニ各讀會間ノ定期ノ日數ヲ短縮シタイト存ジマスガ、御異議ハゴザイマセメカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議が無クレバ左様心得テ置キマス、本日ノ諸般ノ報告ハ省略イタシマス

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ玆ニ載録ス〕

一 去ル六日可決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ

明治三十年法律第十三號中改正法律案

一同日議員木村誓太郎君ヨリ二十一名ノ贊成ヲ以テ日本勸業銀行法中改正法律案ニ對スル修正動議案ヲ提出セリ

一同日特別委員會ニ於テ當選シタル委員長及副委員長ノ氏名左ノ如シ

日本興業銀行法中改正法律案特別委員會

委員長 伯爵正親町 實正君 副委員長 男爵尾崎 三良君

一同日政府ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

工場抵當法案

鑛業抵當法案

一同日特別委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

外國ニ於ケル銀行事業ニ關スル法律案可決報告書

一去ル七日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

明治三十七年勅令第七十七號(承諾ヲ求ムルノ件)

明治三十七年勅令第二百二十五號(承諾ヲ求ムルノ件)

又同日衆議院ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

外國ニ於テ流通ヘル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造及模造ニ關スル法律案

俘虜處罰ニ關スル法律案

一去ル八日資格審査委員長ヨリ議員松村脩平君選舉爭訟ノ件報告書ヲ提出セリ

一同日議員海軍主計總監從三位勳二等長谷川貞雄君薨去セラル依テ昨九日

弔辭ヲ贈レリ

一昨九日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

賣藥稅法案

罹災救助基金法中改正法律案

北海道罹災救助基金法案

所得稅法中改正法律案

又同日衆議院ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

行政執行法中改正法律案

民事訴訟法中改正法律案

刑事訴訟法中改正法律案

一同日議員子爵三島彌太郎君、男爵松平正直君ヨリ五十八名ノ贊成ヲ以テ北海道拓殖銀行法中改正法律案ニ對スル修正動議案ヲ提出セリ

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ議事日程ニ移リマス、議事日程第一、

伊達侯爵病氣ニ付三週間ノ請暇ノ件デアリマスガ、御異議ガ無ケレバ許可イ

タシマス

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 次ハ議事日程第二、古物商取締法中改正法律案、

第一讀會、山縣內務次官

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ玆ニ載録ス以下之ニ做フ〕
古物商取締法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十八年二月四日

貴族院議長公爵德川家達殿

古物商取締法中改正法律案

古物商取締法中左ノ通改正ス

附則

本法ハ明治三十八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員山縣伊三郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(山縣伊三郎君) 此古物商取締法ハ御承知ノ通り其發布當時ニ在

テハ沖繩縣ニ之ヲ施行スルコトヲ許サナイ事情ガアッタノデアリマスル、然ル

ニ其後交通ノ頻繁ナルト人智ノ進歩トニ依ッテ營業ノ情況ガ今日ハ餘ホ下變

テ參リマシテ、古物商、質屋ヲ專業ト致シマスル者モ段々増加イタシテ參リマ

シテ、此現行法ヲ施行スルニアラザレバ到底十分ナル目的ヲ取締上、達スル

コトヲ得マセヌノデ、其改正ヲ要スル次第デアリマスル、尙序デニ申上ケテ

置キマスルガ、此次ノ議題トナルベキ質屋取締法モ同一ノ理由ヲ以テ提出イ

タシタモノデアリマスルカラ、是亦御協贊アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 別ニ御發言並御質問ガゴザイマセネバ次ノ議事日

程ニ移リマス、議事日程第三、特別委員ノ選舉、此委員ノ選定ハ議長ニ御任

セニナリマスカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ議長ガ選定イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 次ハ議事日程第四、質屋取締法中改正法律案、第

一讀會

質屋取締法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十八年二月四日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長松田 正久

質屋取締法中改正法律案

質屋取締法中左ノ通改正ス

第二十七條但書ヲ削ル

附則

本法ハ明治三十八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御發言御質問モ無イヤウデアリマスカラ、次ノ議事日程ニ移リマス、議事日程第五、特別委員ノ選舉、此委員ハ前ノ古物商取締法中改正法律案ノ委員ニ委託シテ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 次ハ議事日程第六ニ移リマス、北海道一級町村及二級町村ヲシテ租稅外國庫歲入ヲ徵收セシムル法律案、第一讀會

北海道一級町村及二級町村ヲシテ租稅外國庫歲入ヲ徵收セシムル法律案 右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十八年二月四日

衆議院議長松田 正久

貴族院議長公爵徳川家達殿

北海道一級町村及二級町村ヲシテ租稅外國庫歲入ヲ徵收セシムル法律案

第一條 北海道廳長官ハ北海道ニ於ケル一級町村及二級町村ヲシテ其ノ町村内ノ租稅外國庫歲入ヲ徵收セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ町村ニ交付スヘシ

第二條 町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ歲入金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣ニ其ノ責任免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審査シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得

附則

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 北海道ニハ自治制ヲ施キマセヌ前ニ於テハ町村ニハ皆戸長ガゴザイマシテ、戸長ハ官吏デアリマス故ニ租稅外ノ收入ヲモ取扱ッテ居リマシタガ、一級町村制、二級町村制ト云フヤウナ自治制ヲ施カレ

マシテ以來、町村長ハ官吏デ無イ者デゴザイマスカラ、國庫ノ金ヲ取扱フコトガ出來ヌト云フコトニナリマシタ、ソレガ爲ニ從來此山林ノ拂下代デアルトカ其他水源ノ使用料ナドトカ云フヤウナモノヲ役場ヘ納メルコトガ出來マシタノガ、支廳ノ所在地マデ持ッテ行ッテ納メナケレバナラヌ、何十里モ距離ノアリマス支廳ノ所在地マデ持ッテ行カナケレバナラヌ、斯ウ云フ風ニナリマシテ甚ダ不便ニナリマシタノデゴザイマスカラ、今度此法律ヲ制定イタシマシテ前ノ如ク市町村役場ヘ之ヲ納付スルコトノ出來ルヤウニ致シタイト思ヒマス、是ガ本案ノ主意デゴザイマス、ドウゾ宜シク……

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ議長ガ選定イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第八ニ移リマス、地租條例中改正法律案 第一讀會

地租條例中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十八年二月四日

衆議院議長松田 正久

貴族院議長公爵徳川家達殿

地租條例中改正法律案

地租條例中左ノ通改正ス

第四條 左ニ掲グル土地ニ付テハ其地租ヲ免ス

一 國府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地但有料借地ハ此限ニ在ラス

二 府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體カ公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタル其所有地但命令ノ定ムル期間内ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セサルトキハ此限ニ在ラス

三 鄉村社地

四 墳墓地

五 用惡水路、溜池、堤塘、井溝

六 鐵道用地

七 保安林

八 公衆ノ用ニ供スル道路

府縣郡市町村其地ノ公共團體ハ前項ノ土地ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス但所有者以外ノ者前項第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於テ其土地ニ對シ使用者ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルハ此限ニ在ラス

第十二條 削除

第十三條 地租ハ左ニ掲クル者ヨリ之ヲ徵收ス

一 質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者

二 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル土地上權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者

三 其他ノ土地ニ付テハ所有者

前項ニ於テ質權者、地上權者、所有者ト稱スルハ土地臺帳ニ質權者、地上權者、所有者トシテ登錄セラレタル者ヲ謂フ

附則

本法中第十三條第一項第二號ハ明治三十八年分地租ヨリ之ヲ施行ス明治三十一年法律第四號及明治三十三年法律第十九號ハ之ヲ廢止ス

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 公用ニ供シマスル土地ハ今日ハ免租スルト云フコトニナツテ居リマスガ、併ナガラ借入レタモノデアリマス免租シナイト云フノガ現行法デゴザイマス、ソレ故ニ例ヘバ郡ノ土地ヲ借りテ縣ノ學校ヲ建テルトカ或ハ町村ノ土地ヲ借りテ郡ノ學校ヲ建テルトカ云フ場合ニハ公用ニ供スル場合デアリマススケレドモ、借入地デアルト云フ故ヲ以テ免租スルコトハ出來ヌコトニナリマス、然ルニ同ク公用ニ供スルト云フコトデアレバ免租スルノガ當然デアリマスデ、地租條例ノ第四條ノ規定ヲ改正シタイト思ヒマス、又今日ノ規則ハ質入ニナツテ居リマセメモノハ所有者カラ取り、質入ニナツテ居ルモノハ質取主カラ取ル規則ニナツテ居リマス、民法制定以來、土地ニシテ地上權ノ目的トナツタモノガ大分出來マシタノデ、而シテ地上權ニハ民法ニ於テ期限ガ定メテアリマセメカラ、大變長イ期限ノ地上權ト云フモノガ出來マシタノデ、中ニハ千年或ハ甚シキハ二千五百年ト云フノモゴザイマスガ、或ハ九百九十九年ト云フヤウナ地上權ガ大分出來マシタノデ、斯ウ

云フヤウナ地上權ニナリマススト云フト、殆ド所有權ト同ジ位ノ値打ノアルモノデアリマスカラ、而シテサウ云フ地上權ガ設定セラレルト殘ッタ所有權ト云フモノハ殆ド價ノ無イモノニナリマス、其價ノ無イモノヲ持ッテ居ル所有者カラ地租ヲ取ラウトシマシテモ、時々滯納ガ起ッタトキニハ徵稅ヲ完クスルコトガ出來ナイ、是マデサウ云フ長イ期限ノ地上權ノ目的トナツテ居ル場合ニハ地上權者カラ地租ヲ取ルノガ相當デアアル、斯ウ云フ二點ノ改正ヲ要シマス爲ニ地租條例ノ改正ヲスルノデアリマス、ドウゾ御協賛ヲ願ヒマス

○子爵高野宗順君 政府委員ニ質問シタイ、此第八ニ「公衆ノ用ニ供スル道路」トアリマスガ、是ハ「地租ヲ免ス」トゴザイマスガ、是マデハ地租ト云フモノハ免除ニナツテ居ラナカッタ、ソレカラ又此第八ニゴザイマスノハ、ドウ云フ所ヲ申シタノデゴザイマスガ、チヨッ御説明ヲ願ヒタイ

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 地租條例ノ四條ノ改正ハ是ハ一號ト二號トダケガ改正ニナリマスノデ、アトノ三號カラ八號マデハ現行法ノ規定ガ殆ド改ッテ居リマセヌ、唯禁伐林ト云フ名目ノ附イテ居ルモノヲ保安林ト更ヘタダケデ、アトハ全ク現行法デアリマス、而シテ「公衆ノ用ニ供スル道路」ト云フノハドウ云フモノデアアルカト云フト、是ハ一般ノ道路ハ多クハ公有地、官有地デアリマスカラ勿論地租ハカケマセヌ、サウ云フ道路デアリマセヌ私有地ニ道路ヲ開イテ、サウシテ、然カモ之ヲ公衆ノ通行ニ任セテ居ルト云フノガゴザイマス、サウ云フ所ハ矢張り地租ヲ免ズルト云フコトガ現行法ノ規定デゴザイマス

○議長(公爵徳川家達君) 他ニ御質問ハ無イヤウデアリマスカラ、次ノ議事日程ニ移リマス、議事日程第九、特別委員ノ選舉、此委員モ議長ノ選定デ宜シウゴザイマスカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ議長ガ選定イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 次ハ議事日程ノ第十、不動産登記法中改正法律案、第一讀會

不動産登記法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十八年二月四日

衆議院議長松田正久

貴族院議長公爵德川家達殿

不動産登記法中改正法律案

不動産登記法中左ノ通改正ス

第十一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

登記所ハ土地ニ付キ左ニ掲ケタル事項ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク
其旨ヲ土地臺帳所管廳ニ通知スルコトヲ要ス

一 所有權ノ保存若クハ移轉

二 質權ノ設定、移轉若クハ消滅

三 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ設定、移轉若クハ消滅又ハ

百年ヨリ長キ存續期間ヲ百年以下ニ變更シ若クハ百年以下ノ存續期
間ヲ百年ヨリ長キ期間ニ變更シ又ハ存續期間ノ定ナキ地上權ニ百年
ヨリ長キ期間ヲ定メ若クハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ヲ
存續期間ノ定ナキモノト爲シタルコト

○議長(公爵德川家達君) 別ニ御質問モゴザイマセバ次ノ議事日程ニ移リ
マス、議事日程第十一、特別委員ノ選舉、此委員ハ議事日程第八ノ法案ノ委
員ニ付託シタイト思ヒマスガ如何デゴザイマスカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異存ガ無ケレバ同一委員ニ付託イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十二ニ移リマス、輸入原料砂糖戻稅法
中改正法律案、第一讀會、若槻政府委員……、便宜上、議事日程ノ第十四ノ
法案ノ説明モ同時ニ願ヒマス

輸入原料砂糖戻稅法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十八年二月四日

衆議院議長松田正久

貴族院議長公爵德川家達殿

輸入原料砂糖戻稅法中改正法律案

輸入原料砂糖戻稅法中左ノ通改正ス

第一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

輸入ノ砂糖ニシテ和蘭標本色相第十四號以下ノモノヲ原料トシ政府ノ承

認テ得テ精製糖及氷砂糖ヲ製造シタル者ハ其ノ原料砂糖ノ數量ヨリ製造
ノ際生成シタル和蘭標本色相第十四號以下ノ砂糖ノ數量ヲ控除シタル數
量ニ對シ納付シタル輸入税ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコト
ヲ得

砂糖消費稅法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十八年二月四日

衆議院議長松田正久

貴族院議長公爵德川家達殿

砂糖消費稅法中改正法律案

砂糖消費稅法中左ノ通改正ス

第十一條ノ第三項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ災害ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ
限ニ在ラス

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 精製糖ヲ造リマス原料ニスル砂糖ヲ外國カラ輸
入シタモノニハ輸入税ヲ戻スト云フノガ現行ノ規定デゴザイマス、ソレデ若
シ原料糖ヲ使ヒマシテ、總テソレガ精製糖ト糖蜜トニ分レテ仕舞フモノデア
リマスレバ、全部原料糖ニ戻稅ヲシテ差支ナイノデゴザイマスガ、製糖會社
ナドノ都合ニ依リマススト云フト、世間ノ相場ノ如何ニ依テ全部精製糖ヲ造リ
マセマデ、精製糖ト一部分ハ粗製ノ砂糖ヲ造ル、サウシテ糖蜜ト斯ウ云フヤ
ウニ爲ス場合ガアリマス、其場合ニ粗製糖デ出シマシタモノノ原料マデヲ戻
スコトニナルト結局外國カラ輸入スル砂糖ニ關稅ヲカケナカッタト同一ノ結
果ニナリマスノデ、其不都合ヲ救済スル爲ニ此輸入原料糖戻稅法ノ改正ヲ致
スノデアリマス、ソレカラ次ノ日程ニアリマス砂糖消費稅ノ改正ハ原料糖ニ
消費スルモノハ消費稅ヲ取ラヌコトニナッテ居リマスガ、其代リ六箇月以內
ニ精製糖ヲ造リマセマト、ドンナ原因デ造ラナイコトガアルトシテモ總テ稅
ヲ取ルト云フコトニナッテ居リマス、ソレデ全體ノ多クガ無クナッタト云フ
コトガ明ナル場合ト雖モ、尙精製糖ガ出來マセマト稅ヲ取ルト云フコトニナッ
テ居リマスノデ、現ニサウ云フ實例ガ既ニ有ツタ位デアリマスノデ、ソレハ甚
ダ氣ノ毒ナ事情デアアル次第デアリマスカラ、サウ云フ場合ニ無クナッタト云

フ事柄が明カデアレバ税金ヲ取ラナイト云フ斯ウ云フコトニスルノガ消費稅法中ノ改正ノ趣意デアリマス、ドウゾ御協賛ヲ願ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 別ニ御質問等モ無イヤウデアリマスカラ次ノ議事日程ニ移リマス、議事日程第十三、特別委員ノ選舉、此委員モ議長ニ御委任ニナリマスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ議長ガ選定イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十四ノ法案ニ付テ御質問モ無イヤウデアリマスカラ議事日程ノ第十五ニ移リマス、特別委員ノ選舉、此委員ノ選定モ議長ニ御任セニナリマスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ議長ニ於テ選定イタシマス、是ハ第十二ト同一委員ニ付託シテハドウデアリマセウカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ガ無ケレバ同一委員ニシマス

○議長(公爵德川家達君) 次ハ議事日程ノ第十六ニ移リマス、鑛業法案、第一讀會

鑛業法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十八年二月四日

衆議院議長松田正久

貴族院議長公爵德川家達殿

鑛業法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ試掘、採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、蒼鉛鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、滿俺鑛、重石鑛、水鉛鑛、砒鑛、磷鑛、黑鉛、石炭、亞炭、石油、土瀝青及

硫黃ヲ謂フ但シ砂鑛ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 未タ掘探セサル鑛物(廢鑛及鑛滓ヲ含ム)ハ國ノ所有トス

第四條 本法ニ於テ鑛業權ト稱スルハ試掘權及採掘權ヲ謂フ

鑛業權者ハ鑛區ニ於テ其ノ許可ヲ受ケタル鑛物ヲ掘探シ及之ヲ取得スル權利ヲ有ス但シ鑛區ノ重複シタル場合ニ於テハ鑛業權者ハ互ニ其ノ權利ヲ制限セラル

第五條 帝國臣民又ハ帝國法律ニ從ヒ成立シタル法人ニ非サレハ鑛業權者ト爲ルコトヲ得ス

第六條 本法ニ規定シタル鑛業權者ノ權利義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス

本法ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願セントスル者、鑛業出願人、鑛業權者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七條 二人以上共同シテ鑛業ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サムトスルトキハ内一人

ヲ選定シテ代表者ト爲シ鑛山監督署長ニ届出ツヘシ其ノ届出ナキトキハ鑛山監督署長之ヲ指定ス

代表者ハ國ニ對シ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ヲ代表ス

共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ハ組合契約ヲ爲シタル者ト看做ス

第八條 本法ニ於テ鑛夫ト稱スルハ鑛業ニ從事スル勞役者ヲ謂フ

第九條 本法ニ於テ鑛區ト稱スルハ鑛業權ノ登録ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂フ

鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ面積ハ石炭ニ在リテハ五萬坪以上其ノ他ノ鑛物ニ在リテハ五千坪以上トシ共ニ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス但シ鑛利保護上又ハ鑛區分合上已ナ得サル場合ニハ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得

同一ノ鑛區ニ於テハ二以上ノ鑛業權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ目的異種ノ鑛物ナルトキ及第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 宮城、離宮、神宮及皇陵ノ周圍三百間以内並要塞地帯第一區内ノ場所ハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

陸海軍所轄ノ軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内並要塞地帯第二區及第三區内ノ場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

前二項ニ掲ケタル場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十一條 鐵道、軌道、道路、運河、河湖、沼池、堤塘、社寺境内地、墓地、公園地其ノ他ノ營造物及建物ノ地表地下トモ其ノ周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳ノ許可、所有者及關係人ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ鑛業ヲ爲シ又ハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ所有者及關係人ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正、増減及改正ノ出願ニ付テハ鑛業ノ出願ニ關スル規定ヲ準用ス

第十三條 本法ニ於テ鑛業稅ト稱スルハ鑛區稅及鑛產稅ヲ謂フ

第二章 鑛業權

第十四條 本法ハ第八章ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

第十五條 鑛業權ハ物權トシ不動産ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民法第七十九條第一項ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 鑛業權ハ不可分トス

第十七條 鑛業權ハ相續、讓渡、滯納處分及強制執行ノ目的タルノ外權利ノ目的タルコトヲ得ス但シ探掘權ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

第十八條 試掘權ノ存續期間ハ登錄ノ日ヨリ二箇年トス

第十九條 前項ノ期間ハ鑛區ノ増減又ハ改正ノ爲變更セラルルコトナシ

第二十條 鑛業權及抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅並處分ノ制限ハ鑛業原簿ニ登錄ス共同鑛業權者ノ脱退ニ付テモ亦同シ但シ鑛業權ノ處分ヲ制限セラレタルトキハ廢業ノ登錄ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 前項ノ登錄ハ登記ニ代ルモノトス

第二十二條 登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 前條第一項ニ掲ケタル事項ハ相續、期限ノ到來ニ因ル鑛業權ノ消滅並第四十二條及第四十三條ノ競賣ノ場合ヲ除クノ外登錄ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十四條 鑛業ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ試掘ニ付テハ鑛山監督署長、探掘ニ付テハ農商務大臣ニ出願スヘシ

第二十五條 鑛業出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ試掘ニ付テハ鑛山監督署長、探掘ニ付テハ農商務大臣ニ届出ヲ爲スニ非サ

レハ其ノ效力ヲ生セス

第二十三條 探掘出願人ハ出願地ニ其ノ探掘セムトスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第二十四條 農商務大臣ニ於テ試掘出願地探掘ニ適スルモノト認メタルトキハ探掘ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ探掘ノ出願ヲ爲ササトキハ試掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

前二項ノ規定ハ農商務大臣ニ於テ探掘出願地仍試掘ヲ要スルモノト認メタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 探掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ農商務大臣ハ其ノ訂正ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ訂正ノ出願ヲ爲ササルトキハ探掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

第二十六條 探掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ探掘出願人ハ其ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得

第二十七條 鑛業出願人ハ出願地ノ増減ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條 試掘出願地出願ノ當時鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス

第二十九條 探掘出願地出願ノ當時他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス但シ第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 探掘出願地他人ノ試掘出願地ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ第二十四條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條 鑛業出願地他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ異種ノ鑛物ナルトキハ鑛山監督署長ハ之ヲ鑛業權者ニ通知スヘシ

鑛業權者ハ前項ノ通知書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ自ラ其ノ鑛業ヲ出願スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第三十六條及豫メ鑛業權者ノ承諾ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用セス

第一項ノ出願他人ノ鑛業ニ妨害アリト認メタルトキハ之ヲ許可セス

レハ其ノ效力ヲ生セス

第二十三條 探掘出願人ハ出願地ニ其ノ探掘セムトスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第二十四條 農商務大臣ニ於テ試掘出願地探掘ニ適スルモノト認メタルトキハ探掘ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ探掘ノ出願ヲ爲ササトキハ試掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

前二項ノ規定ハ農商務大臣ニ於テ探掘出願地仍試掘ヲ要スルモノト認メタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 探掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ農商務大臣ハ其ノ訂正ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ訂正ノ出願ヲ爲ササルトキハ探掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

第二十六條 探掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ探掘出願人ハ其ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得

第二十七條 鑛業出願人ハ出願地ノ増減ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條 試掘出願地出願ノ當時鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス

第二十九條 探掘出願地出願ノ當時他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス但シ第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 探掘出願地他人ノ試掘出願地ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ第二十四條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條 鑛業出願地他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ異種ノ鑛物ナルトキハ鑛山監督署長ハ之ヲ鑛業權者ニ通知スヘシ

鑛業權者ハ前項ノ通知書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ自ラ其ノ鑛業ヲ出願スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第三十六條及豫メ鑛業權者ノ承諾ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用セス

第一項ノ出願他人ノ鑛業ニ妨害アリト認メタルトキハ之ヲ許可セス

レハ其ノ效力ヲ生セス

第二十三條 探掘出願人ハ出願地ニ其ノ探掘セムトスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第二十四條 農商務大臣ニ於テ試掘出願地探掘ニ適スルモノト認メタルトキハ探掘ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ探掘ノ出願ヲ爲ササトキハ試掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

前二項ノ規定ハ農商務大臣ニ於テ探掘出願地仍試掘ヲ要スルモノト認メタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 探掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ農商務大臣ハ其ノ訂正ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ訂正ノ出願ヲ爲ササルトキハ探掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

第二十六條 探掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ探掘出願人ハ其ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得

第二十七條 鑛業出願人ハ出願地ノ増減ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條 試掘出願地出願ノ當時鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス

第二十九條 探掘出願地出願ノ當時他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス但シ第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 公益ヲ害スルモノト認メタルトキ又ハ鑛業ノ價值ナシト認メタルトキハ鑛業ノ出願ヲ許可セス

第三十三條 試掘出願地又ハ探掘出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ願書發送ノ日時ノ先ナル者優先權ヲ有ス願書發送ノ日時同一ナルトキハ鑛山監督署長ハ之ヲ各出願人ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テ出願人ハ其ノ通知書發送ノ日ヨリ六十日以内ニ協議ヲ調ヘ之ヲ届出ツヘシ出願人前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ抽籤ニ依リ優先權者ヲ定ム

前二項ノ規定ハ第二十五條、第二十六條第三十一條第二項及第三十六條ノ場合ニハ之ヲ適用セス

試掘出願地探掘出願地ト重複スル場合ニ於テ願書發送ノ日時同一ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ探掘出願人ハ優先權ヲ有ス

第三十四條 試掘出願人同種ノ鑛物ニ付更ニ探掘ノ出願ヲ爲シタル場合ニ於テ出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ探掘ノ出願ハ試掘願書發送ノ日時ニ於テ試掘ノ出願ニ代リタルモノト看做ス但シ前條第四項ノ場合ハ此ノ限ニ任ラス

前項本文ノ規定ハ探掘出願人同種ノ鑛物ニ付更ニ試掘ノ出願ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ第二十四條及第二十五條ノ場合ニ於ケル期限經過後ノ出願ニ之ヲ適用セス

第三十五條 探掘權者ハ鑛區ノ合併又ハ分割ヲ農商務大臣ニ出願スルコトヲ得鑛區ノ一部ヲ分割シテ之ヲ他ノ鑛區ニ合併セムトスルトキ亦同シ抵當權ノ設定アル場合ニ於テ前項ノ出願ヲ爲サムトスルトキハ抵當權者ノ承諾及抵當權ノ順位ニ關スル協定ヲ經ヘシ

第三十六條 鑛床ノ位置形狀ニ依リ隣接スル他人ノ鑛區ニ掘進スルノ必要アルトキハ隣接鑛業權者ノ承諾ヲ經テ鑛區ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得但シ隣接鑛業權者ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十七條 第二十五條第一項、第二十六條、第二十七條及第三十三條第三項ノ規定ハ之ヲ鑛區ニ準用ス

第二十五條第一項ニ該當スル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ出願ヲ爲ササルトキハ農商務大臣ハ探掘權ヲ取消スヘシ

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ鑛區ノ減少ヲ出願セムトスルトキハ豫メ抵

當權者ノ承諾ヲ經ヘシ

第三十八條 錯誤ニ因リ鑛業ノ出願ヲ許可シタルトキハ農商務大臣ハ鑛區ノ改正ヲ命シ又ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

前項ノ改正ヲ命シタル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ出願ヲ爲ササルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

第三十九條 鑛業公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

第四十條 鑛業權者正當ノ理由ナクシテ登録ノ日ヨリ一箇年以内ニ事業ニ著手セス若ハ一箇年以上休業シタルトキ又ハ施業案ニ依ラスシテ探掘ヲ爲シタルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第四十一條 鑛業權者第七十二條ノ命令ニ從ハサルトキ又ハ鑛業稅ヲ納メサルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第四十二條 探掘權取消ノ登録アリタルトキハ鑛山監督署長ハ直ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ

抵當權者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ探掘權ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ第三十八條第一項及第三十九條ノ規定ニ依リ探掘權取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

探掘權ハ前項ノ期間内又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

競賣ニ依ル賣得金ハ競賣ノ費用及抵當權者ニ對スル債務ノ辨濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

競買人ハ探掘權取消ノ登録アリタル時ニ於テ探掘權ヲ讓受ケタルモノト看做ス

第四十三條 前條ノ規定ハ探掘權者廢業シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 探掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ施業案ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキハ亦同シ

探掘權者ハ施業案ニ依ルニ非サレハ探掘ヲ爲スコトヲ得ス

第四十五條 鑛山監督署長ハ理由ヲ示シテ施業案ノ變更ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ變更シタル施業案ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第四十六條 探掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ坑内實測圖及鑛業簿ヲ鑛業

事務所ニ備ヘ置キ且其ノ模本ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第四十七條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛業ニ關スル明細表ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第四十八條 試掘ニ依リテ得タル鑛產物ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第四十九條 隣接鑛業權者其ノ他ノ利害關係人ハ他人ノ鑛區ニ付鑛山監督署長ニ其ノ實地調査ヲ出願スルコトヲ得

出願人ハ前項ノ調査ニ要スル人夫及物品ヲ供スヘシ

第三章 土地使用

第五十條 本章ニ於テ關係人ト稱スルハ第五十二條乃至第五十四條及第五十六條ノ通知前使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者及其ノ通知後ニ於テ通知前ヨリ既存セル權利ヲ承繼シタル者ヲ謂フ

第五十一條 本章ニ於テ補償金ト稱スルハ對價、使用料其ノ他土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ニ對スル補償金ヲ總稱ス

第五十二條 鑛業ノ出願又ハ鑛業ノ爲必要アルトキハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人又ハ鑛業權者ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ許可ヲ得タル者他人ノ土地ニ立入ラムトスルトキハ豫メ土地占有者ニ通知スヘシ

第五十三條 前條ノ規定ニ依リ測量又ハ検査ノ爲必要アルトキハ鑛山監督署長ノ許可ヲ得テ障礙物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ許可ヲ得タル者障礙物ヲ除却セムトスルトキハ豫メ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第五十四條 鑛業上急迫ノ危險ヲ防ク爲必要アルトキハ鑛業權者ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ得テ直ニ他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ遲滞ナク之ヲ土地占有者ニ通知スヘシ

第五十五條 前三條ニ依リ所有者及關係人ノ受ケタル損失ニ對シテハ其ノ請求ニ依リ補償金ヲ拂渡スヘシ

第五十六條 鑛業權者ハ左ニ掲グル目的ノ爲必要アルトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得

一 錐鑽孔又ハ坑口ノ開穿

二 鑛物、土石、爆發藥、用材、薪炭、鑛滓又ハ灰燼ノ置場ノ設置

三 選鑛場又ハ製鍊場ノ建設

四 鐵道、軌道、道路、運河、溝渠、管樋、池井、索道又ハ電線ノ開設

五 其ノ他鑛業上必要ナル工事又ハ工作物ノ施設

前項ノ規定ニ依リ鑛業權者他人ノ土地ヲ使用セムトスルトキハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クヘシ

鑛山監督署長前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ノ後鑛業權者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

第五十七條 土地ノ使用三箇年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十八條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十九條 土地ヲ使用又ハ收用スルトキハ土地所有者及關係人ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十條 土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十一條 土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ通路、溝渠、墻柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲スノ必要ヲ生スルトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十二條 第五十六條ノ通知ノ後土地ノ形質ヲ變更シ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置セムトスルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケスシテ之ヲ爲シタル者ハ之ニ關スル補償金ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十三條 第五十六條ノ通知ノ後事業ヲ廢止又ハ變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ニ對シ鑛業權者ハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十四條 土地所有者及關係人ハ鑛業權者ニシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第六十五條 土地ノ使用又ハ收用ノ協議調ヒ裁決確定シ又ハ判決アリタル

トキハ補償金又ハ擔保ノ裁決確定セサルトキト雖鑛業權者ハ其ノ裁決ニ

第六十六條 鑛業權者補償金ノ拂渡若ハ供託ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサル

トキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用ウルコトヲ拒ムコトヲ得

第六十七條 土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ鑛業權者之

ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ鑛業權者之ヲ取得シ

其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモ

ノハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條 土地ノ使用ヲ終リタルトキハ鑛業權者ハ土地ヲ原狀ニ復シ又

ハ原狀ニ復セサルニ因リテ生スル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡シテ之ヲ返還

スヘシ

第六十九條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ使用又ハ收用ニ因

リテ債務者ノ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡

前ニ差押ヲ爲スヘシ

第七十條 土地ノ使用及收用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關スル權利ニ之

ヲ準用ス

第四章 鑛業警察

第七十一條 鑛業ニ關スル左ノ警察事務ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農商務大

臣及鑛山監督署長之ヲ行フ

一 建設物及工作物ノ保安

二 生命及衛生ノ保護

三 危害ノ豫防其ノ他公益ノ保護

第七十二條 鑛業上危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認メタルト

キハ農商務大臣ハ鑛業權者ニ其ノ豫防又ハ鑛業ノ停止ヲ命スヘシ

急迫ノ危險ヲ防ク爲必要アルトキハ鑛山監督署長ハ前項ノ處分ヲ爲スコ

第五章 鑛夫

第七十四條 鑛業權消滅シタル後ト雖一箇年間ハ農商務大臣及鑛山監督署

長ハ第七十二條ノ規定ニ準シ其ノ鑛業權ヲ有セシ者ニ對シテ危害豫防ニ

關スル設備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ危害豫防ノ目的ノ範圍内ニ於テ鑛業權者ト看

做ス

第七十五條 採掘權者ハ鑛夫ノ雇傭及勞務ニ關スル規則ヲ定メ鑛山監督署

長ノ許可ヲ受クヘシ

第七十六條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫名簿ヲ鑛業事務所ニ備

ヘ置クヘシ

第七十七條 鑛業權者鑛夫ヲ解雇シタル場合ニ於テハ其ノ請求ニ依リ雇傭

ノ期間、業務ノ種類、技能、賃金及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與

フヘシ

第七十八條 鑛業權者ハ毎月一回以上期日ヲ定メ通貨ヲ以テ鑛夫ニ其ノ賃

金ヲ支拂フヘシ

第七十九條 農商務大臣ハ命令ヲ以テ鑛夫ノ年齢及就業時間並婦女、幼者

ノ勞役ノ種類ヲ制限スルコトヲ得

第八十條 鑛夫自己ノ重大ナル過失ニ因ラスシテ業務上負傷シ疾病ニ罹

リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫又ハ其ノ

遺族ヲ扶助スヘシ

第六章 鑛業稅

第八十一條 鑛業權者ニハ鑛業稅ヲ課ス

金鑛、銀鑛、鉛鑛及鐵鑛ニ付テハ鑛產稅ヲ課セス

第八十二條 鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅ヲ課セス

第八十三條 鑛區稅ハ鑛區一千坪毎ニ毎年試掘ニ付テ八十錢、採掘ニ付テ

八十四錢トス但シ一千坪未滿ハ之ヲ一千坪ト看做ス

第八十四條 鑛區稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ

第三十五條 第一項ニ依ルモノヲ除クノ外鑛業權ノ設定若ハ變更ノ登錄ニ

依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル鑛區稅ニシテ其ノ登錄ノ年ニ係ルモノハ之

ヲ即納スヘシ

前項ニ依リ納付スヘキ鑛區稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス鑛業權ノ存續期間

満了ノ年ニ係ルモ亦同シ

第八十五條 鑛産税ハ鑛産物ノ價格ノ百分ノ一トス

鑛産物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣之ヲ告示ス其ノ告示セサルモハ之ヲ檢定ス

第八十六條 鑛産税ハ毎年三月中ニ前年分ヲ納付スヘシ但シ鑛業權消滅ノ場合ニ於テハ即納スヘシ

第八十七條 共同鑛業權者ノ納稅義務ハ連帶トス

第八十八條 北海道、府縣及市町村ハ鑛業税ニ對シ各本稅百分ノ十以內ノ附加税ヲ課スルコトヲ得

前項ノ附加税ノ外北海道 府縣及市町村ハ鑛業ニ對シ又ハ鑛夫、鑛産物、鑛區若ハ直接鑛業用ノ工作物、器具、機械ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ北海道及沖繩縣ノ區並間切島其ノ他町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第七章 訴願訴訟及裁決

第八十九條 鑛業ニ關スル出願ノ許可又ハ拒否ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十條 第十一條又ハ第三十六條ノ承諾ヲ拒マレタル者及其ノ承諾ヲ得ルコト能ハサル者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十一條 鑛業權ノ取消ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十二條 土地ノ使用若ハ收用、補償金又ハ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ鑛業權者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決中土地ノ使用又ハ收用ニ付不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ裁決中補償金又ハ擔保ニ付不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スル

コトヲ得

第九十三條 處分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ處分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケサル者ニ付テハ其ノ公示ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第八章 罰則

第九十四條 鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ掘採シタル者又ハ詐僞ノ所爲ヲ以テ鑛業權ヲ得タル者ハ二年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

過失ニ因リ鑛區外ニ掘掘シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ掘採シタル鑛物ヲ沒收ス既ニ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス

第九十六條 第十條第三項若ハ第十一條ノ規定ニ違背シタル者又ハ第七十二條若ハ第七十四條第一項ノ命令ニ從ハサル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十七條 第四十四條若ハ第四十五條第二項ノ規定ニ違背シタル者、第四十五條第一項若ハ第七十三條第一項ノ命令ニ從ハサル者又ハ第七十九條若ハ第八十條ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十八條 第四十六條乃至第四十八條、第七十六條又ハ第七十八條ノ規定ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 第五十三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ障礙物ヲ除却シタル者又ハ第七十五條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

當該官吏ニ對シテ鑛業ニ關スル書類若ハ物件ヲ檢査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタル者ハ罰則同シ但シ其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第一百條 第七十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百一條 詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ鑛業税ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ其ノ脱稅金額三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第一百二條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用キス

第一百三條 鑛業權者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ鑛業權者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ鑛業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テ

ハ此ノ限ニ在ラス

第四百條 鑛業權者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

本法ニ基キテ發ズル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ命令ニ規定セル罰則ニ付テモ亦同シ

第二百五條 前二條ノ場合ニ於テハ禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第二百六條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

第二百七條 本法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

鑛業條例ハ之ヲ廢止ス

第二百八條 鑛業條例ニ依ル試掘ノ認可ハ試掘權ノ登錄ト看做ス

第二百九條 日本坑法ニ依ル借區ノ許可及鑛業條例ニ依ル探掘ノ特許ハ探掘權ノ登錄ト看做ス但シ鑛業條例第四十一條第二項ニ定メタル面積ニ滿タル鑛區ニ對スルモノハ其ノ期限ノ到來ニ因リテ消滅ス

第一百十條 本法施行前ニ於ケル官廳所屬ノ探掘區域ハ探掘鑛區トシ本法施行ノ日ニ於テ探掘權ノ登錄ヲ得タルモノト看做ス

第一百十一條 鑛業條例ニ依ル探掘權ノ書入ノ登錄ハ抵當權ノ登錄ト看做ス

第一百十二條 第七十四條ノ規定ハ本法施行前ニ試掘認可又ハ探掘特許ノ消滅シタル場合ニモ之ヲ適用ス但シ一箇年ノ期間ハ其ノ消滅ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第一百十三條 日本坑法ニ依リ借區ノ許可ヲ得タル者及鑛業條例ニ依リ試掘ノ認可又ハ探掘ノ特許ヲ得タル者ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ明治三十八年分ノ鑛區稅又ハ其ノ不足額ヲ納付スヘシ其ノ鑛區稅ハ月割ヲ以テ計算ス

第一百十四條 明治三十八年分ノ鑛產稅ハ本法施行前ニ得タル鑛產物ニ付テモ之ヲ課ス

第一百十五條 第八十八條ノ規定ハ明治三十八年度分ノ稅ニ限り之ヲ適用セス

第一百十六條 鑛業條例ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中

之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第一百七條 本法施行前ニ爲シタル處分ニ對スル訴願、裁定請求、行政訴訟又ハ民事訴訟ニ關シテハ鑛業條例ノ規定ニ依ル

第一百十八條 鑛業條例ニ依リテ試掘又ハ探掘ヲ出願シタル鑛區ノ面積ニ付テハ鑛業條例第四十一條第二項ノ規定ヲ適用ス

第一百十九條 明治三十七年十二月三十一日以前ヨリ引續キ重石鑛又ハ水鉛

鑛ヲ探掘スル者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ鑛物探掘ノ特許ヲ出願スルトキハ其ノ探掘區域ニ限り第三十一條、第三十三條及鑛區ノ面積ニ關スル第九條ノ規定ニ拘ラス特許ヲ與フヘシ

前項ノ探掘者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ特許ヲ出願シタル者ハ其ノ指令ノ日迄本法ノ規定ニ拘ラス其ノ探掘ヲ繼續スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リテ特許ヲ得タル區域ノ面積五千坪未滿ナル場合ニ於テハ其ノ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス

〔國務大臣男爵清浦奎吾君演壇ニ登ル〕

○國務大臣〔男爵清浦奎吾君〕 鑛業法案提出ニ就テノ理由ヲ述ベマス、鑛業條例ハ御承知ノ如ク明治二十三年ニ制定セラレマシタモノデ、其後鑛業ノ進歩發達ニ付キマシテ此規定ノ實際ノ應用上、調和ヲ缺ク嫌ヒモ少カラヌコトデアリマス爲ニ、官民共ニ其不便ヲ感ジテ居リマス、曩ニ第十六議會ニ於テ鑛業條例ノ改正案即チ鑛業法案ヲ本院ニ提出セラレマシテ、本院ニ於テ審議可決ノ上、衆議院ニ送付ニナリマシタカナレドモ、會期等ノ都合ニ依ッテカ衆議院ニ於テ成立ヲ告ゲマセナンダヤウナ次第デ、依ッテ今茲ニ復再ビ提出スル運

ビニ至リマシテゴザイマス、改正ヲ試ミマス要點ハ、第一、鑛業權ノ性質竝探掘權ト試掘權ノ差別ガ明瞭ナラズ分明ナラザル點ガ少カラヌト認メマス、次ニ鑛業ニ關シマス所ノ取締規定ノ上ニ付キマシテモ廉ク備ハラヌ點ガゴザイマス、又鑛夫即チ勞動者ノ保護ノ上ニ於テ今日ヨリ見マスレバ、不十分ナリトスル點モアリマス、訴願、訴訟ニ付イテ、門戶ガ甚ダ狹小ト認メマス點モアリマス、其他十有餘年之ヲ實地ニ施行シマシタル上ニ於キマシテ種々ナル弊害ヲ現出イタシテ居リマス、詰リ法規ノ缺漏アルヲ利用シテ種々不正ナ手段ヲ計ルト云フヤウナ弊ガ少クアリマセヌ、即チ鑛業權ヲ抵當ニ供シテ置キナ

ガラ廢業届チナシテ、即チ債權者ニ其擔保ヲ失ハシムルト云フヤウナコトガ

アツタリ、或ハ鑛業出願ノ場合ニ於キマシテ協議ニ應ゼズシテ竊ニ先願ノ利ヲ占メヤウト計ルヤウナコトガアツタリ、實際ニ於テハ種々ノ弊害モ生ジテ居リマシテ、當業者ニ於テモソレ等ノ點ニ付キマシテハ深ク不便ヲ感ジテ居リマス、デソレ等ノ弊害ヲ矯正スル目的ヲ以テ改正ヲ計リマシタ、特ニ申述ベテ置キマスノハ、此今般ノ改正案ニ於キマシテハ試掘稅ヲ課スルト云フコトノ規定ニナツテ居リマスデゴザイマス、ハ衆議院ニ於テモ多少議論ノアリマシタ點デ、併ナガラ今日鑛業家が試掘ノ爲ニ莫大ナル鑛區ヲ占領イタシテ、其坪數ハ殆ド二十二億カラ二十五億萬町歩ニモ達スルト云フコトデアリマス、デハ採掘ニ著手スルカト申シマスニ、廣ク區域ヲ占領シタルマ、採掘ニハ取掛リマセヌノデゴザイマス、即チ良キ價ヲ求メテ沽ラメヤト云フヤウナコトデ、自分採掘ニハ從事セズシテ唯徒ラニ廣大ナル所ノ鑛區ヲ占領シテ、而シテ鑛物ヲ地底ヨリ採掘スルト云フ所ノ鑛業ハサツパリ進歩シナイト云フヤウナ弊が大キクアリマス、ソコデ今般ノ改正ニ於キマシテハ試掘鑛區ニ對シマシテモ相當ト認メマス所ノ課稅ヲ致ス、而シテ此試掘稅、採掘稅ノコトハ既ニ經過シマシタル所ノ豫算案ニ關係ヲ持ツテ居ル次第デゴザイマシテ、衆議院ニ於キマシテモ此課稅ニ付イテハ多少ノ議論モアリマシタカナレドモ、終ニ此必要ヲ認メマシテ原案通り通過イタシマシタヤウナ次第デゴザイマス、衆議院ニ於テ原案ニ對シテ多少ノ修正ハ加ヘテ居リマシタカナレドモ、其修正タル別ニ此施行ノ上ニ於テ格別ノ差障リヲ見ルト云フ程ノコトモアリマセヌノデアリマスカラ、ドウゾ本案ニ付キマシテハ願クハ速ニ協贊ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

○子爵曾我祐準君 本員等ハ鐵道抵當法案ノ委員デアリマスガ、先達テ中ヨリ審査ノ進行モ十分デゴザイマセヌ、今日ハ出席員モ大分澤山アラセラレルヤウデアリマスカラ、許可ヲ得マシテ唯今ヨリ鐵道抵當法案ノ審査ニ掛リタウゴザイマス、此段請求イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 曾我子爵ノ請求通りデ御異存ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○子爵曾我祐準君 ドウカ右法案ノ委員ハ委員室ヘ御出デテ願ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 御發言並御質問モ無イヤウデアリマスカラ次ノ議事日程ニ移リマス、議事日程第十七、特別委員ノ選舉、是モ選定ハ議長ニ御任セニナリマスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ
○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ議長ガ選定イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十八ニ移リマス、遠洋漁業獎勵法改正法律案、第一讀會

遠洋漁業獎勵法改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十八年二月四日

衆議院議長松田正久

貴族院議長公爵徳川家達殿

遠洋漁業獎勵法

第一條 遠洋漁業ヲ獎勵スル爲國庫ハ豫算ノ定ムル所ニ依リ毎年度十五萬圓以內ヲ支出ス

第二條 本法ニ依リ獎勵金ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミナ社員又ハ株主トシテ帝國法律ニ從ヒ設立シタル法人ニ限ル

第三條 主務大臣ハ遠洋漁船検査規程ニ適合シタル日本船舶ヲ以テ遠洋ニ於ケル漁獵業又ハ漁獲物ノ處理運搬業ニ從事スル者ニ對シ其ノ業務ノ種類、場所、期間並船舶ノ構造、噸數及年齡ニ從ヒ率ヲ定メ五箇年ヲ超エサル期間ニ於テ漁業獎勵金ヲ下付スルコトヲ得但シ一箇年ノ定額ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一 汽船總噸數每一噸

二十二圓

一 帆船總噸數每一噸

十八圓

前項ニ掲ケタル船舶ノ船員ハ其ノ五分ノ四以上帝國臣民タルコトヲ要ス
第四條 主務大臣ハ前條ニ依リ獎勵金ヲ受クヘキ漁獵船乗組ノ漁獵員ニ對シ漁獵業ノ種類、場所及期間ニ從ヒ率ヲ定メ漁獵員獎勵金ヲ下付スルコトヲ得但シ一箇年ノ定額ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一 漁獵長每一人

七十二圓

一 漁獵手每一人

三十六圓

一 漁獵夫每一人

十二圓

第五條 主務大臣ハ豫メ認可シタル方法及設計ニ依リ遠洋漁船検査規程ニ定ムル構造ニ適合シタル日本船舶ヲ新造シ若ハ新造セシメ又ハ日本船舶

ニ新造ノ機關ヲ据附ケ若ハ据附ケシメタル船舶所有者ニ對シ其ノ噸數、馬力ニ從ヒ率ヲ定メ漁船獎勵金ヲ下付スルコトヲ得但シ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一 船體總噸數每一噸

鐵、鋼製 四十圓
木鐵交造又ハ木鋼交造 三十五圓
木製 三十圓

一 蒸汽機關實馬力每一馬力

十圓

一 石油發動機關純馬力每一馬力

二十圓

第六條 獎勵金ヲ下付スルコトヲ得ヘキ漁獵業ノ種類、船舶ノ噸數ノ制限並漁獵員ノ資格及定員ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム漁獵業ノ種類ニ依リ其ノ漁獵ノ場所ヲ制限スルノ必要アルトキ亦同シ

第七條 漁業獎勵金ヲ受クヘキ漁獵業者又ハ漁獲物處理運搬業者毎業務期間ニ於テ其ノ業務ニ從事スルコト業務期間ノ四分ノ三ニ滿タサルトキハ其ノ期間ニ對スル獎勵金ヲ下付セス但シ船舶ノ沈没、破壊若ハ行衛不明又ハ自己ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ業務ニ從事スルコト能ハサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

漁獵員獎勵金ヲ受クヘキ漁獵員毎業務期間ニ於テ其ノ業務ニ從事スルコト業務期間ノ四分ノ三ニ滿タサルトキ又ハ出漁中其ノ船舶ヲ去リタルトキハ其ノ期間ニ對スル獎勵金ヲ下付セス但シ業務中死亡シ又ハ故意若ハ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ及前項但書ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ其ノ獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間之ヲ外國人ニ讓渡、貸付又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス但シ既ニ受ケタル漁船獎勵金ヲ償還シタルトキ、天災其ノ他抗拒スヘカラサル強制ニ因リ航行ニ堪ヘサルニ至リタルトキ又ハ主務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ其ノ獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間主務大臣ニ於テ正當ノ事由ニ因リ已ムヲ得サルモノト認ムル場合ヲ除クノ外毎年業務期間ノ四分ノ三以上遠洋ニ於ケル漁獵又ハ漁獲物處理運搬ノ爲之ヲ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ要ス

第十條 主務大臣ハ漁業獎勵金ヲ受クル者又ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ヲシテ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ爲サシメ及漁業獎勵金ヲ受クル者ノ使用スル船舶又ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ニ遠洋漁業練習生ヲ乘組マシムルコトヲ得

第十一條 遠洋漁業ノ指導、監督及遠洋漁業練習生養成ノ爲必要ナル費用ハ第一條ノ金額ヨリ支出シ之ニ充ツルコトヲ得

第十二條 主務大臣ハ漁業獎勵金ヲ受クル者又ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル者及其ノ承繼人ノ業務ヲ監督シ之カ爲必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條 主務大臣ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シ又ハ主務大臣ノ命令ニ從ハサル者ニ對シ獎勵金ノ下付ヲ廢止スルコトヲ得

第十四條 詐偽ノ所爲ヲ以テ獎勵金ヲ受ケタル者又ハ第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯サルトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第十五條 主務大臣ハ詐偽ノ所爲ヲ以テ獎勵金ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ因テ得タル金額第八條又ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者ニ對シテハ其ノ既ニ受ケタル金額ヲ償還セシムヘシ

前項ノ償還金ハ國稅徵收法ノ規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

主務大臣ハ前項ノ徵收金ニ付國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用キス

第十七條 當業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 當業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十九條 前二條ノ場合ニ於テハ禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第二十條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發

スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

第二十一條 本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ八箇年之間ニ施行ス但シ本法施行前ニ於テ獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ許可期間内ハ仍從前ノ規程ヲ適用ス

第二十二條 總噸數二十噸未満ノ船舶ニ關シ本法ニ依リ獎勵金ヲ受ケ又ハ受ケムトスル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ船舶検査法、船舶職員法、船舶法及船員法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

〔政府委員牧朴眞君演壇ニ登ル〕

○政府委員(牧朴眞君) 遠洋漁業獎勵法ノ改正案ニ付キマシテ一應申上ゲテ置キマス、遠洋漁業獎勵法ハ去ル三十年ニ發布サレマシタノデゴザイマス、以來今日ニ至ルマデノ實蹟ニ鑑ミマス、彼ノ臘肭獸獵漁ノ如キハ此遠洋漁業獎勵法ノ爲ニ全ク其效ヲ奏シタト言ッテ宜シイノデアリマス、從來此法ノ出マス以前、即チ二十六年頃カラシテ八九年ニ掛ケテ太平洋ノ北方面等ニハ外國ノ船が出沒イタシマシテ、臘肭獸ノ漁業ハ專ラ外國人ニ任カシテアリマシタ位デアリマシタ、其後世間ニモ追々議論が起リマシタコトガゴザイマシタガ、其後遠洋漁業獎勵法ノ發布以來、段々日本人ニ於テ遠洋漁業船ヲ製造シ、或ハ之ヲ買入レテ此臘肭獸獵業ニ從事イタシマシタ結果、今日ニ於テハ太平洋北方面及日本海ノ北方面ニ至ッテハ日本船ハアリマスルガ、殆ド外國船ヲ見ナイコトニナリマシタ、畢竟ハ遠洋漁業獎勵法ノ獎勵ノ結果デアルト考ヘマス、併ナガラ其他ノ漁業ニ至リマシテハ、決シテ發達ヲ見マセヌノデゴザイマス、他ノ鱈獵或ハ鯨獵ニ致シマシテモ、鯨獵ニ致シマシテモ、其他一般遠洋漁業ニ屬スル漁業ハ今日ニ至ルマデ目的通りノ發達ヲ見マセヌ、ソレハ誠ニ遺憾ニ考ヘテ居リマスコトデゴザイマス、是ハ如何ナルコトカラシテ他ノ遠洋漁業ガ發達シマセヌカト考ヘマスルト、全ク法律上ニ不完備ナル點ガアルノヲ發見イタシマシタコトデゴザイマス、其點ハ如何ナル點デアアルカト申シマスルト、元來漁船ハ一種特別ナル漁業ニ適スル設備ガ無ケレバナリマセヌ、木船ニシテモ汽船ニシテモ、ソレノ漁業ニ適スル準備ガナケレバナラズ、適當ナ構造ガ無ケレバナリマセヌ、然ル所今日マデ遠洋漁業獎勵法ニ於テハ新規ノ漁船ヲ製造スルコトヲ獎勵スルコトガ掲ゲテアリマセヌ故ニ、他ノ荷物船デ漁業ニ從事スルヤウナコトガゴザイマス爲ニ、實際

ニ於テハ利益ヲ相當ニ收メルコトノ出來マセヌコトガ多クゴザイマス、是ハ畢竟新規ノ漁船ニ適スル船ヲ製造スル獎勵ノ途ガ缺ケテ居ル故ト考ヘマス、尙一ツハ是マデノ獎勵法デゴザイマスルト、總テノ漁業ヲ總括イタシマシテ、何ノ種類ヲ問ハズ大ナルハ鯨獵、小ナルハ鯨獵ニ至ルマデ、總テ噸數ヲ一定シマシテ、汽船ナラバ五十噸以上、帆船ハ三十噸以上ナラバ如何ナル船ヲ持ッテ來テモ獎勵スルト云フコトニナッテ居リマス、實際ニ考ヘテ見マスルト、漁業ノ種類ニ依ッテハ大船ヲ要シ、又遠洋漁業ニ小船ヲ要スルコトモアル、ソレデ或ル種類ノ漁獵ニハ二三十噸ノ船ガ漁獵ニ適當ナリト云フコトガ追々分ッテ來マシタ、然ルニ今日マデ法律ニ於テハ總テ船ヲ總括シテ帆船ナラバ三十噸以上、汽船ナラバ五十噸以上デナケレバ獎勵金ヲ與ヘヌト云フコトニナッテ居リマシタガ、是ハ不適當ト考ヘマスルコトデゴザイマス、其他ニ尙二三點ゴザイマスルケレドモ、是ハ瑣細ナコトデアリマス、大體ノ目的ハ先ヅ此アタリガ全ク法律ノ不完備デアルガ故ニ、此度ハ此不完備ヲ補フ爲ニ全部ノ法律ヲ改正イタシマシテ、曩ニ衆議院ニ提出サレマシテ、衆議院ニ於テハ通過イタシタ、尤モ衆議院ニ於キマシテハ、二三箇所修正ヲ加ヘラレマシテゴザイマス、是ハ瑣細ナコトデゴザイマシテ、第十一條ニ其費額ハ豫算ヲ以テ之ヲ定メルトゴザイマシタ所ヲ、第一條ノ費額モ矢張り豫算ヲ以テ定メルノデアルカラ、寧ロ第一條ニ於テ「豫算ノ定ムル所ニ依リ」ト云フコトヲ掲ゲタ方ガ便利デアルト云フ説デゴザイマシタ、今一ツハ第五條ニ「製造シ若ハ製造セシメ」トゴザイマシタ所ガ、是ハ製造若クハ製造セシメルト云フコトデハ又再ビ此船ヲ持ッテ來テ獎勵金ヲ請求シテ來ル嫌ヒガアルカラシテ、寧ロ新ニ製造スルモノニ獎勵金ヲ與ヘル趣意ナラバ「新造シ若ハ新造セシメ」ト改メタ方ガ過チナカラシメル方法デアルト云フコトヲ以テ、衆議院ハ此三箇條ニ修正ヲ加ヘラレマシタ、是ハ格別本案ノ趣意ニ背クコトモ認メマセヌノデゴザイマス、ソレヲ今回本院ニ提出セラレタコトデゴザイマスカラ、ドウカ御審議ノ上ニ御協贊アラムコトヲ願ヒマス

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 次ノ議事日程ニ移リマス、第十九、特別委員ノ選舉、此委員ノ選定モ議長ニ於テ指名シテ宜シウゴザイマスカ

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ議長ニ於テ選定イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 次ノ議事日程第二十二移リマス、工場抵當法案、第一讀會

工場抵當法案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十八年二月六日

内閣總理大臣 伯爵桂 太郎

農商務大臣 男爵清浦 奎吾

司法大臣 波多野敬直

工場抵當法

第一條 本法ニ於テ工場ト稱スルハ營業ノ爲物品ノ製造若ハ加工又ハ印刷若ハ撮影ノ目的ニ使用スル場所ヲ謂フ

營業ノ爲電氣又ハ瓦斯ノ供給ノ目的ニ使用スル場所ハ之ヲ工場ト看做ス

第二條 工場ノ所有者カ工場ニ屬スル土地ノ上ニ設定シタル抵當權ハ建物ヲ除クノ外其ノ土地ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物及其ノ土地ニ備附ケタル機械、器具其ノ他ノ物ニシテ自己ノ所有ニ屬スルモノニ及ブ但シ

設定行爲ニ別段ノ定アルトキ及民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ債權者カ債務者ノ行爲ヲ取消スコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ工場ノ所有者カ工場ニ屬スル建物ノ上ニ設定シタル抵當權ニ之ヲ準用ス

第三條 工場ノ所有者カ工場ニ屬スル土地又ハ建物ニ付抵當權設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リテ抵當權ノ目的タル物ノ目錄ヲ提出スヘシ

第二十二條第二項、第三十五條及第三十八條乃至第四十二條ノ規定ハ前項ノ目錄ニ之ヲ準用ス

第四條 第二條第一項但書ノ定アルトキハ抵當權設定ノ登記ノ申請書ニ之ヲ記載スヘシ

第五條 抵當權ハ工場ノ所有者カ土地若ハ建物ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物又ハ土地若ハ建物ニ備附ケタル機械、器具其ノ他ノ物ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ト雖其ノ物ニ付之ヲ行フコトヲ得但シ第三取得者カ善

意ナリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 工場ノ所有者カ抵當權者ノ同意ヲ得テ土地又ハ建物ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ヲ土地又ハ建物ト分離シタルトキハ抵當權ハ其ノ物ニ付消滅ス

工場ノ所有者カ抵當權者ノ同意ヲ得テ土地又ハ建物ニ備附ケタル機械、器具其ノ他ノ物ノ備附ヲ止メタルトキハ抵當權ハ其ノ物ニ付消滅ス

工場ノ所有者カ抵當權者ノ爲差押、假差押又ハ假處分アル前ニ於テ正當ナル事由ニ因リ前二項ノ同意ヲ求メタルトキハ抵當權者ハ其ノ同意ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條 抵當權ノ目的タル土地又ハ建物ノ差押、假差押又ハ假處分ハ第二條ノ規定ニ依リテ抵當權ノ目的タル物ニ及ブ

第八條 規定ニ依リテ抵當權ノ目的タル物ハ土地又ハ建物ト共ニスルニ非サレハ差押假差押又ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第九條 工場ノ所有者ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲一箇又ハ數箇ノ工場ニ付工場財團ヲ設クルコトヲ得

第十條 工場財團ニ屬スルモノハ同時ニ他ノ財團ニ屬スルコトヲ得ス

第十一條 工場財團ノ設定ハ工場財團登記簿ニ所有權保存ノ登記ヲ爲スニ依リテ之ヲ爲ス

第十二條 工場財團ノ所有權保存ノ登記ハ其ノ登記後一箇月内ニ抵當權設定ノ登記ヲ受ケサルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第十三條 工場財團ハ左ニ掲クルモノノ全部又ハ一部ヲ以テ之ヲ組成スルコトヲ得

一 工作所、事務所、倉庫其ノ他ノ建設物

二 機械、器具、船舶、牛馬、電柱、電線、配置諸管、軌條其ノ他ノ附屬物

三 土地及地上權

四 土地又ハ水ノ使用權

五 賃貸人ノ承諾アルトキハ物ノ賃借權

六 工業所有權

第十二條 工場ニ屬スル土地又ハ建物ニシテ未登記ノモノアルトキハ工場財團ヲ設クル前其ノ所有權保存ノ登記ヲ受クヘシ

第十三條 他人ニ屬スル物權若ハ賃借ノ目的タルモノ又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルモノハ工場財團ニ屬セシムルコトヲ得ス

工場財團ニ屬スルモノハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權以外ノ物權、貸借、差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第十四條 工場財團ハ之ヲ一箇ノ不動產ト看做ス

工場財團ハ所有權及抵當權以外ノ物權ノ目的又ハ貸借ノ目的タルコトヲ得ス

第十五條 工場ノ所有者カ抵當權者ノ同意ヲ得テ工場財團ニ屬スルモノヲ財團ヨリ分離シタルトキハ抵當權ハ其ノモノニ付消滅ス

第六條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 第二條、民法第三百七十一條、第三百八十八條及第三百八十九條ノ規定ハ土地又ハ建物カ抵當權ノ目的タル工場財團ニ屬スル場合ニ之ヲ準用ス

民法第二百八十一條ノ規定ハ要役地カ抵當權ノ目的タル工場財團ニ屬スル場合ニ之ヲ準用ス

民法第三百九十八條ノ規定ハ地上權カ抵當權ノ目的タル工場財團ニ屬スル場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 工場財團ノ登記ニ付テハ工場所在地ノ區裁判所又ハ其ノ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

不動産登記法第八條第二項ノ規定ハ工場カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カリ又ハ工場財團ヲ組成スル數箇ノ工場カ數箇ノ登記所ノ管轄地内ニ在ル場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 各登記所ニ工場財團登記簿ヲ備フ

第十九條 工場財團登記簿ハ一箇ノ工場財團ニ付一用紙ヲ備フ

第二十條 工場財團登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙ノ二區ニ分チ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ケ

登記番號欄ニハ各財團ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス
表示欄ニハ工場財團ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス
乙區事項欄ニハ抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第二十一條 登記ノ申請書ニハ不動産登記法第三十六條第三號乃至第八號

ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 工場ノ名稱及位置

二 主タル營業所

三 營業ノ種類

第二十二條 工場財團ニ付所有權保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ不動産登記法第三十五條第一項ニ掲ケタル書面ノ外工場財團目錄ヲ提出スヘシ

前項ノ目錄ニハ工場財團ヲ組成スルモノノ表示ヲ掲ケ申請人之ニ署名、捺印スヘシ

第二十三條 所有權保存ノ登記ノ申請アリタルトキハ其ノ財團ニ屬スヘキモノニシテ登記アルモノニ付テハ職權ヲ以テ其ノ登記用紙中相當區事項欄ニ工場財團ニ屬スヘキモノトシテ其ノ財團ニ付所有權保存ノ登記ノ申請アリタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スヘシ

前項ニ掲ケタルモノカ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ前項ノ規定ニ依リ記載スヘキ事項ヲ遲滞ナク管轄登記所ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ第一項ノ手續ヲ爲シ其ノ登記簿ノ謄本ヲ通知ヲ爲シタル登記所ニ送付スヘシ但シ其ノ謄本ニハ抹消ニ係ル事項ヲ記載スルコトヲ要セス

前三項ノ規定ハ工業所有權カ工場財團ニ屬スヘキ場合ニ之ヲ準用ス但シ通知ハ之ヲ特許局ニ爲スヘシ

第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ官報ヲ以テ工場財團ニ屬スヘキ動産ニ關シ物權若ハ貸借ニ因ル權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者ハ一定ノ期間内ニ其ノ權利ヲ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ

前項ノ公告ハ所有權保存ノ登記ノ申請カ期間ノ滿了前ニ却下セラレタルトキハ遲滞ナク之ヲ取消スヘシ

第二十五條 前條第一項ノ期間内ニ權利ノ申出ナキトキハ物權又ハ貸借ニ因ル權利ハ存在セサルモノト看做シ差押、假差押又ハ假處分ハ其ノ效力ヲ失フ但シ所有權保存ノ登記ノ申請カ却下セラレタルトキ又ハ其ノ登記カ效力ヲ失ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 第二十四條第一項ノ期間内ニ權利ノ申出アリタルトキハ遲滞

ナク其ノ旨ヲ所有權保存ノ登記ノ申請人ニ通知スヘシ

第二十七條 所有權保存ノ登記ノ申請ハ不動産登記法第四十九條ニ掲ケタル場合ノ外左ノ場合ニ於テ之ヲ却下スヘシ

一 登記簿若ハ其ノ謄本又ハ登録ニ關スル原簿ノ謄本ニ依リ工場財團ニ屬スヘキモノカ他人ニ屬スル物權若ハ賃借權ノ目的タルコト又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルコト明白ナルトキ

二 工場財團目錄ニ掲ケタルモノノ表示カ登記簿若ハ其ノ謄本又ハ登録ニ關スル原簿ノ謄本ト抵觸スルトキ

三 工場財團ニ屬スヘキ動産ニ關シ物權若ハ貸借ニ因ル權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者カ其ノ權利ヲ申出テタル場合ニ於テ遅クモ第二十四條第一項ノ期間滿了後一週間内ニ其ノ申出ノ取消アラサルトキ又ハ其ノ申出ノ理由ナキコトノ證明アラサルトキ

第二十八條 所有權保存ノ登記ノ申請ヲ却下シタルトキハ第二十三條第一項ノ規定ニ依リテ爲シタル記載ヲ抹消スヘシ

他ノ登記所又ハ特許局ニ所有權保存ノ登記ノ申請アリタル旨ヲ通知シタル場合ニ於テハ其ノ申請ヲ却下シタル旨ヲ遲滞ナク通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所又ハ特許局ハ第二十三條第三項又ハ第四項ノ規定ニ依リテ爲シタル記載ヲ抹消スヘシ

第二十九條 工場財團ニ屬スヘキモノニシテ登記又ハ登録アルモノハ第二十三條ノ記載アリタル後ハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權以外ノ物權若ハ貸借ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第三十條 第二十三條ノ記載アリタル後競賣申立ノ登記アリタル場合ニ於テハ所有權保存ノ登記ノ申請ヲ却下セラレサル間及其ノ登記カ效力ヲ失ハサル間ハ競落ヲ許ス決定ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 第二十三條ノ記載アリタル後ニ爲シタル差押、假差押若ハ假處分ノ登記又ハ先取特權ノ保存ノ登記ハ抵當權設定ノ登記アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第三十二條 前條ノ規定ニ依リ差押、假差押又ハ假處分ノ登記カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ差押、假差押又ハ假處分ノ命令ヲ取消スヘシ

第三十三條 工場財團ニ屬スヘキ動産ハ第二十四條第一項ノ公告アリタル後ハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權以外ノ物權若ハ貸借ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第二十四條第一項ノ公告アリタル後差押アリタルトキハ第三十條ノ規定ヲ準用ス

第二十四條第一項ノ公告アリタル後差押、假差押又ハ假處分アリタル場合ニ於テ抵當權設定ノ登記アリタルトキハ差押、假差押又ハ假處分ハ其ノ效力ヲ失フ

第三十四條 所有權保存ノ登記ヲ爲シタルトキハ其ノ財團ニ屬シタルモノノ登記用紙中相當區事項欄ニ工場財團ニ屬シタル旨ヲ記載スヘシ

第二十三條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ登記簿又ハ登録ニ關スル原簿ノ謄本ノ送付ヲ要セス

第三十五條 所有權保存ノ登記アリタルトキハ工場財團目錄ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其ノ記載ハ之ヲ登記ト看做ス

第三十六條 工場財團ノ抵當權設定ノ登記ノ申請ハ不動産登記法第四十九條ニ掲ケタル場合ノ外第十條ノ期間ヲ經過シタル場合ニ於テ之ヲ却下スヘシ

第三十七條 抵當權設定ノ登記ヲ爲シタルトキハ第三十一條ノ規定ニ依リ效力ヲ失ヒタル登記ヲ抹消スヘシ

第二十三條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ登記簿謄本ノ送付ヲ要セス

第三十八條 工場財團目錄ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ所有者ハ遲滞ナク工場財團目錄ニ記載ノ變更ノ登記ヲ申請スヘシ

前項ノ登記ノ申請書ニハ抵當權者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第三十九條 工場財團ニ屬スルモノニ變更ヲ生シ又ハ新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタルニ因リ變更ノ登記ヲ申請スルトキハ變更シタルモノノ又ハ新ニ屬シタルモノノ表示ヲ掲ケタル目錄ヲ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依リ提出シタル目錄ハ工場財團目錄ニ編綴シ登記官吏其綴目ニ契印スヘシ

第四十條 工場財團ニ屬スルモノニ變更ヲ生シタルニ因リ變更ノ登記ノ

申請アリタルトキハ前ノ目錄中其ノモノノ表示ノ側ニ其ノモノニ變更ヲ生シタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スヘシ

第四十一條 新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ前ノ目錄ノ末尾ニ新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スヘシ

第四十二條 工場財團ニ屬シタルモノノ消滅シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ目錄中其ノ登記ノ目的タルモノノ表示ノ側ニ其ノモノノ消滅シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタル旨、申請書受付ノ年月日及受付番號ヲ記載シ其ノモノノ表示ヲ抹スヘシ

第四十三條 第二十三條乃至第三十四條及第三十七條ノ規定ハ新ニ他ノモノヲ財團ニ屬セシメタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 工場財團ニ屬シタルモノニシテ登記アルモノノ消滅シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタルニ因リ變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ其ノモノノ登記用紙中相當區事項欄ニ其ノ旨ヲ記載シ第二十三條及第三十四條ノ記載ヲ抹消スヘシ

前項ノ掲ケタルモノノカ他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ其ノモノノ消滅シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタル旨ヲ遲滞ナク管轄登記所ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

前三項ノ規定ハ工場財團ニ屬シタル工業所有權ノ消滅シ又ハ財團ニ屬セサルニ至リタル場合ニ之ヲ準用ス但シ通知ハ之ヲ特許局ニ爲スヘシ

第四十五條 工場財團ノ差押、假差押又ハ假處分ハ工場所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

民事訴訟法第二十六條ノ規定ハ工場カ數箇ノ區裁判所ノ管轄地ニ跨カリ又ハ工場財團ヲ組成スル數箇ノ工場カ數箇ノ區裁判所ノ管轄地内ニ在ル場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ工場財團ヲ箇箇ノモノトシテ競賣又ハ入札ニ付スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

第四十七條 民事訴訟法第七百條又ハ競賣法第三十三條ノ規定ニ依リ登記ノ囑託ヲ爲スヘキ場合ニ於テ工場財團ノ抵當權カ競落ニ因リ消滅シタル

トキハ裁判所ハ同時ニ工場財團ニ屬シタル土地、建物、船舶又ハ工業所有權ニ付第二十三條及第三十四條ノ記載ノ抹消及競落人ノ取得シタル權利ノ登記又ハ登録ヲ管轄登記所又ハ特許局ニ囑託スヘシ

第四十八條 工場財團登記簿ハ所有權保存ノ登記カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ抵當權ノ登記カ全部抹消セラレタルトキハ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第四十九條 工場ノ所有者又ハ法律ニ依リ之ニ代リテ一切ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有スル者カ讓渡ノ目的ヲ以テ土地若ハ建物ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物又ハ土地若ハ建物ニ備附ケタル機械、器具其ノ他ノ物ニシテ抵當權ノ目的タルモノヲ他人ニ引渡シ又ハ引渡サシメタルトキハ十五日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス

工場ノ所有者又ハ法律ニ依リ之ニ代リテ一切ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有スル者カ第二十三條ノ記載又ハ第二十四條第一項ノ公告アリタル後工場財團ニ屬スヘキ物又ハ之ニ屬スル物ニシテ前項ノ掲ケタルモノヲ讓渡シ又ハ他人ヲシテ讓渡セシメタルトキ亦前項ニ同シ

第五十條 工場ノ所有者カ抵當權ノ目的ト爲シタル物又ハ抵當權ノ目的ト爲シタル工場財團ニ屬スル物ヲ毀壞シ又ハ他人ヲシテ毀壞セシメタルトキハ刑法第四百十七條乃至第四百二十三條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣波多野敬直君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(波多野敬直君) 本案ハ曩ニ提出ニナリマシタル鐵道抵當法案ト同一ノ種類ノ案デゴザイマスルガ、一應提出ノ理由ヲ説明イタシマス、御承知ノ如ク工場ニ於キマシテ資金ノ融通ヲ計リマスル場合ニ臨ミマシテ、工場ノ最モ値打アル機械器具等ハ之ヲ抵當トナシ得ル規定ガ是マデゴザイマセヌ、然ル故ニ唯土地建物ノミヲ抵當ト致シテ居ル次第デゴザイマス、然ルニ一朝之ヲ、其抵當權ヲ實行イタシマス場合ニ臨ミマシテ、競落人ノ取得イタシマスモノハ單ニ土地建物ノ所有權ノミデ、肝腎ノ機械器具等ニ付テハ如何トモスルコトガ出來マセヌ、又土地建物ヲ抵當ニ致シマスニ付キマシテ、土地ハ土地、建物ハ建物ト各別ニ抵當ニ致シマシテ、各別ニ登記ヲ受ケナケレバナリ

マセヌ、實ニ其手續モ煩雜デゴザイマスノミナラズ、ソレガ爲ニ肝腎ナ機械器具等ノ抵當ガ出來マセヌ故ニ、抵當ノ價格モ甚ダ低廉デゴザイマシテ、經濟上大ニ不便不備ヲ感ジテ居リマス次第デゴザイマス、此法案ハ右等ノ不便不備ヲ補ヒ、且抵當價格ヲ高價ナラシメル爲ニ第一ニ機械器具等ニ付キマシテ抵當ノ規定ヲ設ケ、尙進ンデ工場財團ノ設定ヲ認メマシテ、此工場ニ屬シマスル土地建物機械器具等一切ヲ財團ト致シマシテ、一ト纏メニ抵當ニナシ得ル規定ヲ設ケマシタ、デ資金ノ融通ヲ圓滿ナラシメントスル趣意デゴザイマス、サウシテ此法案ハ重モニ民法等ニ關係ガゴザイマスガ、目下ノ場合最モ必要ナ法案ト存ジマス、ドウカ速ニ御協贊アラムコトヲ希望イタシマス。

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第二十一ニ移リマス、特別委員ノ選舉、此委員ハ信託法案ノ委員ニ委託シテハ如何デゴザイマセウカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ガ無ケレバ左様イダシマス

○議長(公爵徳川家達君) 次ハ議事日程第二十二、鑛業抵當法案、第一讀會

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス
明治三十八年二月六日

右
内閣總理大臣 伯爵桂 太郎
農商務大臣 男爵清浦 奎吾
司法大臣 波多野敬直

鑛業抵當法

第一條 探掘權者ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲鑛業財團ヲ設クルコトヲ得

第二條 鑛業財團ハ左ニ掲グルモノニシテ鑛業ニ關シ探掘權者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス

- 一 鑛業權
- 二 土地又ハ水ノ使用權
- 三 土地及地上權
- 四 賃貸人ノ承諾アルトキハ物ノ賃借權
- 五 工作物

六 機械、器具、車輛、船舶、牛馬其ノ他ノ附屬物

第三條 鑛業財團ニ付テハ工場抵當法中工場財團ニ關スル規定ヲ準用ス

第四條 探掘權取消ノ登録アリタルトキハ鑛山監督署長ハ直ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ抵當權者ハ直ニ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ抵當權ヲ實行セムトスルトキハ抵當權者ハ第一項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六箇月内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

探掘權ハ前項ノ期間内又ハ抵當權實行ノ終了ニ至ル迄抵當權實行ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

競落人又ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル會社ハ探掘權取消ノ登録アリタルトキニ於テ探掘權ヲ讓受タルモノト看做ス

前二項ノ規定ハ鑛業法第三十八條第一項又ハ第三十九條ノ規定ニ依ル探掘權取消ノ場合ニ之ヲ適用セス

第五條 前條ノ規定ハ探掘權者カ廢業シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 競賣ニ付セラレタル鑛業ヲ目的トシ帝國法律ニ從ヒ會社ヲ設立セムトスル者カ競賣ニ加入スルトキハ競買ノ申込ト同時ニ其ノ旨ヲ執行裁判所ニ申出ツヘシ

前項ノ規定ニ依リ競賣ニ加入スル者ハ競買ノ申込ニ關シテハ連帶シテ其ノ責ニ任ス

第七條 鑛業財團ノ競落人カ前條第一項ノ規定ニ依リ競賣ニ加入シタル者ナルトキハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日ヨリ三箇月内ニ會社ヲ設立シ之ヲ執行裁判所ニ届出ツヘシ

第八條 前條ノ競落人ハ會社設立ノ日ヨリ一週間以内ニ競落代金ヲ執行裁判所ニ支拂フヘシ但シ債權者カ競落人タル場合ニ於テハ自己カ競落代金中ヨリ受取ルヘキ金額ヲ控除シ其ノ殘額ノミヲ支拂フヲ以テ足ル

第九條 前條ノ規定ニ依リ競落代金ノ支拂アリタルトキハ競賣ニ付セラレタル鑛業財團ノ所有權ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル會社ニ移轉ス

第十條 第七條ノ期間内ニ會社設立ノ届出ナキトキ又ハ第八條ノ期間内ニ競落代金ノ支拂ナキトキハ執行裁判所ハ職權ヲ以テ鑛業財團ノ競賣ヲ命スヘシ

前項ノ再競賣ニ關シテハ民事訴訟法第六百八十八條ノ規定ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣波多野敬直君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(波多野敬直君) 本案ハ前ノ工場抵當法案ト殆ド同一デゴザイマシテ唯抵當ノ目的タルモノガ違フダケデアリマス、大體提出ノ理由ハ略シ工場法案ト同一デゴザイマスカラ別ニ申シマセヌ、ドウゾ速ニ御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第二十三ニ移リマス、特別委員ノ選舉、是モ議長ニ御任セニナリマスカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 是ハ鐵道抵當法案ノ委員ニ付託シタイト思ヒマスガ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ガ無ケレバ左様イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第二十四、外國ニ於ケル銀行事業ニ關スル法律案、第一讀會ノ續、特別委員長船越男爵

外國ニ於ケル銀行事業ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十八年二月六日

右特別委員長

男爵船越 衛

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔男爵船越衛君演壇ニ登ル〕

○男爵船越衛君 委員會ノ經過ヲ御報告イタシマス、本案ハ去ル四日六日兩度委員會ヲ開キマシテ當局政府委員ノ説明モ委シク承リマシテ調査ヲ遂ゲマシタ、本案ハ即チ外國ニ於テ銀行業ヲ營ムモノニ付テ勅令ヲ以テ規定ヲ發スルト云フコトデゴザイマスガ、外國ト申ス條、先ヅ必要ハ支那朝鮮ニ於キマシテ銀行業ヲ營ムモノニ付テ適當ナ規定ヲ發スルト云フ趣旨デゴザイマス、御承知ノ通り追々支那朝鮮ニ於キマシテハ第一銀行ノ支店、或ハ正金銀行ノ支店ナドモ盛ニ業務ヲ行ウテ居マスガ、彼ノ地ハ商業上ノ習慣モ違ヒ致スヨリ

シテ現今ノ銀行條例、又ハ商法等ニ依ッテ行フコトノ難イコトモゴザイマス、ソレユエ此法案ヲ發布ニナリマシテ適宜ノ方法ヲ設ケルノ趣旨デ、即チ滿洲ニ於キマシテモ既ニ軍用券モ出テ居マスル、此引換等ニ付キマシテモ別ニ條例デモ出來マシヤア大ニ便利ガアルコトデゴザイマシテ、從ッテ軍用券ノ引替等モ銀行ヘ託シテ便利ナ方法ヲ立テラレル趣旨デゴザイマス、至極相當ナ事ト考ヘマスルデ、委員ニ於キマシテハ該法案ハ全會一致ヲ以テ可決イタシマシタ、此段御報告イタシマス、乃チ御承知ノ通り是ハ簡單ナ法案デゴザイマスデ、願クハ讀會ヲ省略イタサレテ可決アラムコトヲ希望イタシマス

○田中芳男君 讀會省略ニ賛成

○男爵松平正直君 賛成

○武井守正君 賛成

○湯地定基君 賛成

〔其他賛成ト呼ブ者多シ〕

○議長(公爵徳川家達君) 船越男爵ノ讀會省略ノ動議ニハ定規ノ賛成者ガゴザイマシタ、讀會省略ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス、原案御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ原案可決、議事日程第二十五、北海道拓殖銀行法中改正法律案第二讀會ヲ開キマス

○議長(公爵徳川家達君) 採決イタシマス、第六條ニハ特別委員ノ修正ガゴザイマス、特別委員ノ修正ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ修正通りニ決シマス、第七條ノ末項ニハ三島子爵ノ修正ガアリマスガ、此修正ハ別ニ採決イタシマス、第七條ノ末項ヲ除イテ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ原案可決、三島子爵北海道拓殖銀行法中改正法律案ニ對スル修正動議

外國ニ於ケル銀行事業ニ關スル法律案 第一讀會ノ續 確定議

北海道拓殖銀行法中改正法律案 第二讀會

貴族院議事速記録第十號

明治三十八年二月十日

一七九

右貴族院規則第九十八條ニ依リ提出候也

明治三十八年二月九日

發議者 子爵三島彌太郎
贊成者 伯爵正親町實正

男爵松平 正直

外五十七名

貴族院議長公爵徳川家達殿

第七條ノ末項ヲ左ノ如ク修正ス

第一項第三號第四號第六號及第二項ノ事業ニ使用スヘキ金額ハ第一項第一號及第二號ニ依ル貸付金總額ヲ超過スルコトヲ得ス

〔子爵三島彌太郎君演壇ニ登ル〕

○子爵三島彌太郎君 私ノ提出イタシマシタ修正案ハ此第七條ノ末項ニ「第一項第三號第四號第六號及第二項ノ事業ニ使用スヘキ金額ハ第一項第一號及第二號ニ依ル貸付金總額ヲ超過スルコトヲ得ス」斯ウゴザイマスルノ「貸付金總額ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス」斯様ニ修正ヲ致シタイト思フノデアリマス、拓殖銀行ハ申スマデモナク北海道ノ土地拓殖ヲ獎勵スル目的ヲ以テ設立セラレタルモノデアリマス、ソレ故ニ普通銀行トハ其趣ヲ異ニ致シマシテ土地抵當貸付ニ最モ重キヲ置イテ居ル、即チ諸君モ御承知ノ通り法律ヲ以テ三十箇年以内年賦償還及五箇年以内ノ定期償還ヲ定メテ居ル、又有價證券擔保貸付ノ如キハ其金額ヲ土地抵當貸金五分ノ一以内ニ限ッテアル、荷爲替ノ如キハ農産物ヲ擔保トスル場合ニ限リマシテ、其普通銀行ノ爲ス所ノ爲替、荷爲替及手形割引等ハ一切行フコトハ出來ナイノデアリマス、是ガ即チ此拓殖銀行設立ノ精神デアル、併シ是等ハ到底世間ノ普通銀行ノ堪ヘ得ル所ノモノデハゴザイマセマカラ、國家ハ之ニ向ッテ特別ニ運轉資本トシテ其株金三百萬圓ノ内百萬圓ニ相當スル株式ヲ引受ケテ、之ニ向ッテ十箇年無配當ヲ甘ンジテ、即チ國家ハ之ニ向ッテ無利息デ金ヲ貸付ケテ居ルノデアリマス、又其拂込資本金ノ五倍ニ相當スル所ノ債券ヲ發行スル權利ヲ與ヘテアル、斯ノ如キ恩典ニ浴シテ居リマスカラ、銀行ハ此精神ニ依ッテ營業ヲシナケレバナラヌガ、今日ノ情態ハ如何様ニナッテ居ルカト申セバ、昨年十二月末日ノ調査ニ依リマス、其總運轉資本四百四十萬圓ノ内二百八十六萬圓、即チ三分ノ二ハ之ヲ土地ニ向ッテ下ロシテ居ル、而シテ残り百四十五萬圓ノ内、有價證券擔保及農産物擔保デ貸付ケテ居ル所ノ金額ハ五十二萬六千圓デアッ

テ、即チ總運轉資本金ノ僅カ九分ノ一ニシカナッテ居ラヌ、是ニ社債券引受高及國庫證券ノ高ヲ合スルト、其金額ハ百四萬圓即チ其總運轉資本ノ四分ノ一ニ達シテ居ラヌノデアリマス、斯ノ如キ今日ノ情況デアルノニ、今俄ニ此銀行ノ業務ヲ擴張シテ普通銀行ニ屬スル所ノ種々ノ業務ヲ行ハセテ、之ト同時ニ是等ノ貸金高ノ割合ヲ高メテ土地貸金高ト同ジ割合ニ至ラシメルヤウニナッタナラバ、銀行ハ勢ヒ法律ノ許ス範圍内ニ於テ次第ニ目下土地ニ向ッテ貸付ケテアル所ノ金額ヲ回收シテ之ヲ他ノ方面ニ向ケルヤウニナルデアラウト思フ、又將來土地ニ向ッテ多少貸溢ル如キコトガ無イトモ言ハレナイ、政府ハ新ニ債券ヲ發行シ資金ヲ得セシメルカラスノ如キ心配ハ無イト言ハレマスガ、併ナガラ資金ヲ得ルト否トハ全ク金融上ニ屬スル將來ノ問題デアッテ、今日之ヲ斷言スルコトハ出來ナイノデアリマス、未來ノコトヲ申セバ寧ロ其反對ノコトヲ言ハナケレバナラヌ、即チ此戰時中及戰後經濟上ノ有様如何ニ依ッテ畜ニ債券ヲ募集スルコトガ出來ザルノミナラズ、或ハ預金ノ引出シニ依ッテ却ッテ資金ガ減ズルカモ知レヌノデアリマス、ソレ故ニ今日ハ今日ノ現情ヲ以テ論ズル外ナイ、若シ今日ノ現情ヲ以テ論ズルト致シマスレバ六十萬圓乃至八十萬圓ダケノ金額ハ目下投資シテアル……下ロシテ居ル資金ノ中カラ之ヲ引去リ之ヲ他ノ方面ニ向ケルコトガ出來ルノデ、若シ果シテ斯ノ如クナッタナラバ將來土地ノ拓殖上少カラザル惡影響ヲ及ボスノミナラズ今日全ク此拓殖銀行設立ノ精神ヲ没却スルモノト言ハナケレバナラヌ、又一方ニ於テハ此銀行ニシテ普通銀行ノ業務ニ立入ッタナラバ、即チソレダケ普通銀行ガ影響ヲ受ケルノデアリマス、而シテソレダケ立入ルコトガ甚ダシクナッタナラバ、恰モ官ノ保護ヲ以テ民業ヲ壓スルト云フ結果ヲ生ズルノデアル、斯ノ如クナラバ國家ヨリ特別ノ恩典ヲ蒙ッテ居ル所ノ此拓殖銀行ノ採ルベキ方針トシテ大ニ考慮スベキ點デアル、假令主務官廳ノ監督ニ依ッテ是等ノ弊害ヲ多少防ギ得ラレルニシテモ、既ニ法律ノ明文ガアル以上ハ十分之ヲ取締ルコトハ甚ダ困難デアルノミナラズ、政府ノ方針ガ一朝變更シタナラバ是等ノ防ギハ全ク付カナイコトニナルノデアリマス、ソレ故ニ私ハ此拓殖銀行設立ノ精神ヲ貫徹セシメムガ爲ニ此貸付金高ノ割合ニ修正ヲ加ヘマシテ、其割合ヲ二ト一トナシ三分ノ二ハ土地ニ向ッテ貸付ケ、残り三分ノ一ハ其他ノ方面ニ向ッテ貸付ケルコトニ致シタイト思ヒマス、諸君何卒御贊成アラムコトヲ希望イタシマス

〔政府委員阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(阪谷芳郎君) 唯今ノ御修正ニ對シマシテ政府ノ意見ヲ申述ベテ置キマス、是ハ詰リ三島子爵ノ御議論モ原案モ程度ノ論ゴザイマシテ、目的ト致シマス所、方針ト致シマス所ニ於キマシテハ、サウ變リハ無いノデアリマス、政府ニ於キマシテハ現在ノ情況ノ下ニ於テ尙將來拓殖銀行ノ發達上ヲ考ヘ、又北海道ノ資金融通ノ便否ヲ考ヘマシテ原案ヲ以テ適當ナリト見認メテ居リマスノデアリマス、政府ニ於キマシテハ修正ニハ同意イタシ兼ネマスル

○議長(公爵德川家達君) 別ニ御發言ハゴザイマセヌカラ……

〔修正案ニ贊成〕ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 三島子爵ノ修正案ニ就テ採決イタシマス、三島子爵ノ修正說ニ贊成ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認メマス、次ハ第八條、第九條、第十二條、束ネテ採決イタシマス、原案ニ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 是ニ於テ第二讀會ハ終リマシタ

○公爵二條基弘君 直チニ三讀會ヲ開カレムコトナ……

○伯爵大原重朝君 贊成

〔贊成〕ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 二條公爵ノ直チニ第三讀會ヲ開クト云フ說ニ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者多シ〕

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ直チニ第三讀會ヲ開キマス、二讀會決定案通り御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ是ニ於テ第三讀會ハ終リマシタ

○議長(公爵德川家達君) 次ハ議事日程第二十六、日本勸業銀行法中改正法律案、第二讀會

貴族院議事速記録第十號 明治二十八年二月十日 北海道拓殖銀行法中改正法律案 第三讀會

○伯爵廣澤金次郎君 私ハ第一讀會ノ場合ノ質問ニ、モウ一ツ質問ヲ加ヘタウゴザイマス、此場合宜シウゴザイマスカ

○議長(公爵德川家達君) 何デスカ

○伯爵廣澤金次郎君 此前政府委員ノ答辯ガ少シ了解シマセヌ所ガアリマスカラ、モウ一應此場合デ質問イタシタウゴザイマスガ、宜シウゴザイマスカ

○議長(公爵德川家達君) 宜シウゴザイマス

○伯爵廣澤金次郎君 私ハ此前一讀會ノ時分ニ政府委員ニ質問イタシマシタガ、其答辯ガ少シ了解イタシマセヌカラ、モウ一應明瞭ニ御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス、此前本員ガ他ノ銀行若クハ會社ニハ同シヤウニ債券ヲ買入レ消却ヲ許シマス御方針カト云フコトヲ質問イタシマシタラバ、其節政府委員ノ曰ク、ソレ等ノコトハ商法ノ規定ニ據ルト、ボンヤリトシタ御答辯デアツタト考ヘル、所ガ其後、商法ヲ披イテ見マスルケレドモ、何條ノ規定ニ依ツテ之ヲ制裁サル、カ、或ハ許サル、カ、一向私ノ考ヘル所デハ商法ノ條項ニハ明瞭ナル條項ガ無いト思ヒマス、就キマシテハ政府ガ何條ダト云フコトヲ御説明ニナリマスレバソレ満足イタシマス、若シ商法ニ規定ガ無いト致シマスルナラバ、政府ハ他ノ銀行會社ニモ同シヤウナル買入消却ト云フコトヲ御許シニナルカト云フコトヲ承リタイ、第二ニハ私ノ聞ク所ニ依リマスレバ既ニ他ノ銀行若クハ會社デ既ニ是等ノコトヲシテ居ル例ガ澤山アルト云フコトヲ政府委員ヨリ言ハレタト云フコトヲ聞イテ居リマスガ、果シテ政府ニ於テハ他ノ銀行會社ガ自分デ發行シテ居ル債券ヲ買入消却シテ居ルト云フコトヲ御認メニナルカ、此三點ニ付テモウ少シ委シク御説明ヲ承リタイト思ヒマス

〔政府委員阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(阪谷芳郎君) 御答イタシマスガ、商法ノ中ニ別ニ買上ゲルト云フ明文ハゴザイマセヌ、併ナガラ債券ノ買上消却ト云フコトハ別ニ禁ジタ條モ無いノデゴザイマスカラ、是ハ會社銀行ノ自由ニヤルコトデアラウト考ヘマス、今日マデドウ云フ例ガアツタカト云フコトハ、チヨット今記憶イタシマセヌガ、有リマシタヤウニ考ヘマス、併シ今斯ウ云フ事實ガアツタト云フコトハチヨット記憶イタシマセヌ

〔伯爵廣澤金次郎君〕政府ノ御方針ハ如何デゴザイマス、許スト云フ御方針デゴザイマスカト述ブ

貴族院議事速記録第十號 明治二十八年二月十日 北海道拓殖銀行法中改正法律案 第三讀會 日本勸業銀行法中改正法律案 第二讀會

一八一

差支ナイト考ヘマス

○男爵松平正直君 唯今幸ニ質問ヲ御許シニナリマシタカラ、本員モ一應政府委員ニ伺ヒマス、政府委員ガ此勸業債券ノ買收消却ノ處分方法ニ就テ委員會ニ於テ二三ノ方法ガ有ルト云フコトヲ答ヘラレタト云フコトニ承リ居リマスルガ、政府ノ採ル所ハドノ方法ニ依ツテヤルカト云フコトヲ御明答アルコトヲ希望イタシマス

〔政府委員阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(阪谷芳郎君) 唯今ノ御問ニ對シマシテ尙同時ニ三十二條二項ノ復活ニ就テ政府ノ希望ヲ述ベテ置キマス、是ハ種々ノ場合ガ有ルト云フコトヲ委員會デ政府委員カラ申述ベタガ其中ノドレヲ政府ハ採ルカ、斯ウ云フ御尋デゴザイマスルガ、今日マデヤツテ居リマスコト尙將來ノ考ヲ申上ゲマスルト、勿論此第一ノ方法即チ別段ニ缺番號ト云フヤウナコトニ致シマセズニ極ツテ居リマス所ノ金額ト順序デ償還イタシマスル方針ヲ探ル考デゴザイマス、ソレ故ニ債券ヲ所有イタシテ居ル者ガ之ガ爲ニ迷惑ヲ蒙ルト云フコトハ決シテゴザイマセヌト信ジマス、而シテ一方資金ノ運用上ニ於キマシテハ便宜ヲ得マスコトハ此前第一讀會ノトキニ説明イタマシタ通りデゴザイマスルデ、是ハ政府原案ニ復活アラムコトヲ切ニ希望イタシテ置キマス

〔木村誓太郎君唯今ハ全部ヲ議題ニセラレテ居リマスカト述ブ〕

○議長(公爵徳川家達君) 木村君ハ何デスカ

○木村誓太郎君 全部ヲ議題ニ付セラレテ居ルノデアリマスカ、第一條カラ議ニ付セラレテ居ルノデアリマスカ

○議長(公爵徳川家達君) 第一條ハゴザイマセヌガ、唯今議長ガ申上ゲヤウト思ツテ居リマシタ、第二十一條、第二十八條、第三十一條、第三十二條、是ダケガ問題ニナツテ居リマス、……採決ヲ致サウト存ジマス、原案御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ原案可決、第三十四條ニハ木村誓太郎君ノ修正説ガアリマス、木村君ニ伺ヒマスガ御説明ニナリマスカ

○木村誓太郎君 ハイ

○議長(公爵徳川家達君) ドウゾコチラニ御出デ下サイ

日本勸業銀行法中改正法律案ニ對スル修正動議

右貴族院規則第九十八條ニ依リ提出候也

明治三十八年二月六日

提出者 木村誓太郎 贊成者 伯爵島津 忠亮

外二十名

貴族院議長公爵徳川家達殿

第三十六條ノニテ特別委員修正ノ通削除ス

第三十四條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
第二十三條、第二十五條、第二十六條第二項及第二十七條ニ依リ期限前ノ償還ヲ受ケ前項但書ノ制限ヲ超過シタルトキハ一時國債證券ヲ以テ之ヲ補填スルコトヲ得

〔木村誓太郎君演壇ニ登ル〕

○木村誓太郎君 私ハ本案ニ對シテ修正動議ヲ提出イタシマシタカラシテ其理由ヲ簡單ニ申述ベヤウト思ヒマス、私ノ修正案ハ豫テ印刷ニ付セラレテ諸君ノ御手許ヘ回ツテ居ルヤウニ存ジマスルデ、定メシ御一覽下サレタコトト信ジテ居リマス、此三十六條ノニテ削除スルト云フ特別委員ノ修正ハ私ハ同意デゴザイマス、其理由ニ付テハ前會ニ於テ委員長ヨリ既ニ申述ベラレタコトモゴザイマスルガ、其大體ニ於キマシテハ、第一ニ於テ此債券ノ金額ノ上ニ割増金マデ附シテ返スト云フコトヲ公約シナガラ、其發行者自身ガ債券ノ金額以內デ之ヲ買入消却スルト云フコトハ原理ニ適ハヌト云フコト、第二ニ債券ノ金額ト買入ノ金額トノ差金ト云フモノハ銀行其者ガ不當ノ利益ヲスルノデアルト云フコト、此先ヅ二點ガ大體ノ之ヲ削除スル理由トナツテ居リマス、併シ又之ニ對シテ原案維持説ノ方ニハ、或ハ既ニ公債買入消却ト云フモノガアルト云フ、此例ヲ引カレレ御方モアルヤウデゴザイマスルガ、是ハ即チ國家ノコトデゴザイマシテ、國家ガ利益ヲスルノハ是ハ一個ノ銀行ノ例ニスルコトハ出來マセヌ、加之私ハ假令國家トシテモ斯ノ如キコトハ宜シカラヌコトデアルト云フコトヲ深ク信ジテ居リマスルガ故ニ、此特別委員ノ削除ノ修正ハ最モ當テ得タモノト私ハ考ヘマスル、ソコデ此買入消却ノ條項ヲ削除シマスルト何カソレニ代ルモノガ一ツ出來ネバナラヌト思ヒマス、ナゼナラバ勸業銀行ガ豫期セザル期限前ニ消却ヲ受ケタガ爲ニ三十四條ノ但書ノ制限ヲ超過シタ場合ニハ之ヲ如何ニスルカト云フ規定ガ現行法ニハ無イノデゴザイマス、現行法ノ三十四條ノ規定ハ「但シ年賦償還貸付金總高及其ノ引受

ケタル農工債券現在高キ超過スルコトヲ得ス」トアリマシテ、即チ拂込額ノ十倍マデハ債券ヲ發スルコトハ出來ルケレドモ、此債券ノ高キ年賦貸付金ノ高ト農工債券ヲ引受ケタ高ト脊クテベナラヌ、謂ハハ之ヲ言換ヘレバ即チ農工債券ノ……勸業債券ノ擔保ト云フモノハ年賦貸付金ト農工債券トノ二ツニ限ツテアルノデゴザイマス、此制限ハ或ハ發行當時ダケノコトデア
ルカ、又ハ期限前ニ償還セラレタ場合ニモ之ヲ適用シテ含シ居ルカト云フコトヲ現ニ政府委員ニ質問ヲ致シマシタ所ガ、是ハ發行當時ノミナラズ期限前ニ償還シタ場合ニモ此但書ハ適用セネバナラヌト云フ答辯デアリマシタ、果シテ然ラバ現行ノ法律ト云フモノハ全ク不備ト申サネバナリマセヌ、又此原案ノ三十六條ノ二ハ「第二十三條ニ依リ」云々トアリマスルガ、此期限前償還ト云フコトハ獨リ二十三條ニ止ラズ二十五條、二十六條、二十七條ニモ此場合ガ有ルノデアリマスル、唯彼ヨリ求メテ返スノト、或ハ勸業銀行カラ求メルノト其違ヒハアリマスルケレドモ、期限前ノ償還ニ至ツテハ同ジコトデゴザイマス、ソレ故ニ玆ニ本員ノ修正案ニハ二十三條、二十五條、二十六條ノ二項、二十七條ト斯様ニ總テ此期限前償還ニ關係ノ有ル條項ヲ此所ヘ集メマシテ、サウシテ其場合ニハ一時國債證券ヲ以テ、國債證券ヲ代用トシテ此三十四條ノ但書ニ適フヤウ、即チ勸業債券ノ擔保タル年賦貸付金ノ不足ヲ補ウテ置クト云フコトニ致シタイノデアリマス、ソレモ一時的ノコトデアリマシテ、唯一時ソレデ補填シテ置イテ、徐ロニ年賦貸付金ヲ實行シテ三十四條ノ但書ノ本則ニ適フヤウニスルト云フ主意カラ此修正案ヲ提出シタ次第デゴザイマス、左様申シマスルト或ハ左様ナ面倒ナコトヲセナクテモ、若シ期限前ニ返シテ來タラバ直グニ貸シサヘスレバ宜イデハナイカト云フ御疑モアリマセウガ、此勸業銀行デ貸付ナシマスルニハ、私モ聞イタコトデアリマスルシ、又此規則デ見レバ分ツテ居リマスルガ、其抵當物ノ検査カラ其他隨分面倒ナル手續ヲセネバナリマセヌ、其手續ヲシマスルニハ、ツイ五十日ヤ六十日ノ日數ヲ要スルコトデゴザイマスカラ、此三十四條ノ但書ニ違背セシメザルヤウニスルニハ是非トモ此修正ヲ私ハ必要ト認メルノデゴザイマス、要スルニ此修正ハ唯現行法ノ不備ヲ補フト云フ主意ニ外ナラヌデアリマスカラシテ、何卒人ヲ以テ言ヲ捨テズ、此修正案ニ御贊成アラムコトヲ希望イタシマス

一政府委員阪谷芳郎君演壇ニ登ル

○政府委員(阪谷芳郎君) 唯今ノ木村君ノ御修正ニ付キマシテハ、政府ハ反對ニ考ヘマス 是ハチヨット便宜ノ御修正ノヤウデゴザイマスケレドモ、此勸業銀行ノ債券ヲ取扱ヒマス大體ノ精神ヲ傷ケルヤウデゴザイマス、即チ貸付ヲ基礎トシテ債券ヲ發行スルト云フコトニナツテ居リマスルノガ、其所ヘ國債證券ヲマゼヤウト云フコトニナルノデゴザイマスカラ、チヨットシタ御修正ノヤウニハ見エマスケレドモ、大體ノ趣旨ガ是デハ變ツテ來ルト考ヘマス、ソレ故ニ斯ウ云フ異様ナル主義ヲ勸業銀行ノ債券ノ取扱ノ上ニ挾ムコトハ宜シクナイト考ヘマス、矢張り政府ハ三十六條ノ二ニ提出イタシマシタ方ヲ主張イタシマス、ドウゾ之ニ御贊成ヲ希望イタシマス

〔男爵松平正直君發言ノ許可ヲ求ム〕

〔木村哲太郎君「質問ガアリマス」ト述ブ〕

○議長(公爵徳川家達君) 松平男爵

○男爵松平正直君 本員ハ委員會ニ於テ削除ノ説ニナリマシタコトニ付キマシテ、三十六條ノ二ヲ削除セラレマシタ委員會ノ……

○議長(公爵徳川家達君) 松平男爵ニ申上ゲマスガ、削除説ノ御説デスカ

○男爵松平正直君 サウデナイノデ、削除説ニ反對……

○議長(公爵徳川家達君) 削除説ノコトハ、マダアトデアリマス、今問題ニ

ナツテ居リマスノハ「第三十四條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ」是ガ問題ニナツ

テ居リマス

○男爵松平正直君 此削除説ハ次ニ解決セラル、ノデアリマスカ

○議長(公爵徳川家達君) 左様デゴザイマス

○男爵松平正直君 左様ナラバ修正説ハ三十四條ニハ無論コレニハ反對デス

此三十四條ヲ此所ニ掲ゲテヤル位ナラバ、無論政府案ヲ活カシテ置クノデ何

モ差支ナイト云フ考デアリマスカラ、三十四條ニハ絶対的ニ反對ヲ致シマス

○森山茂君 唯今御宣告デゴザイマシタガ、チヨット御尋イタシマス、若シ此

木村君ノ案ガ決シマシタナラバ松平君カラ修正ヲ出サウト云フコトモ原案復

活ナスルコトモ出來ナクナリマス、故ニ豫メ今日ノ原案ヲ復ストカ云フ説ガ

アルナラバ、此場合ニ於テ其理由ヲ述ベテ置カレト徹底セヌコトニナリマ

シテ、結果ハ如何デアラウト懸念イタシマス

○男爵松平正直君 本案ハ三十四條ノ修正デ、削除説ハ三十六條デ、此次ニ

御採リニナルコトト考ヘマシテ唯今申述ベタ次第デアリマス

○議長(公爵徳川家達君) 松平男爵ニ申上ゲマスガ、削除説ニ關スル御説ヲ御述ベニナツテモ宜シウゴザイマス

○男爵松平正直君 此三十六條ノ削除説ニ付テノ意見ヲ述ベマス、此削除説ハ委員會ノ報道デ削除セラレマシタ趣旨ハ能ク分リマシタガ、熟考シテ見マスルニ削除セネバナラナイト云フ程ノ理由ニ乏シク、固ヨリ此買收消却ハ出來ナイト斯ウ云フ法律カラ論セラレル人モアリマスガ、此買收ハ相互間ノ満足ヲシテ賣買ヲシマス次第デアリマスモ、何モ此相互ノ間ノ得失ニ關係ハ無イ、而シテ之ヲ買收シマシテ消却チスルノデアルカラ、抽籤ノ場合ニハ後トノ殘リノ債權者ニハ少シモ迷惑ハ掛リマセヌ、シテ見レバ別ニ是ハ削除セネバナラヌト云フ必要ノ理由ハドウモ幾ラ考ヘテモ見出サナイノデアリマス、故ニ此政府案ノ如ク之ヲ成立存在シテ而シテ寧ロ監督上、勸業銀行ノ貸出ノ利子ヲ漸次低廉ニシテ又其貸出方法等ノ煩雜ニ失シ不便ナリト云フコトガアルナラバ、監督上飽クマデ之ヲ貸出スニ付テ便利ノ方法ヲ監督上、能クソレヲ命令セラレマシテ、詰リ勸業銀行ノ年々低利ノ貸出ガ出來得ルト云フコトニ實行アランコトヲ望ムノデアリマス、依テ本員ハ此削除説ニハ反對シマス、政府案ノ可決セラレムコトヲ希望イタシマス、玆ニ一言述ベテ置キマス

○子爵谷干城君 私ハ今ノ松平君ノ説ニ反對スル、削除説ハ誠ニ結構、又木村君ノ修正説、是モ結構ト思ヒマス

○木村誓太郎君 チヨット先刻政府委員カラ御述ベニナツタコトニ付テ御尋イタシマスガ、政府委員ノ先刻ノ御述ベニ依リマスルト、假令一時的ノコトデモ國債證券チ之ニ書加ヘルト云フコトハ、即チ此三十四條ノ精神ヲ没却スルト云フコトニ御述ベデゴザイマシタガ、果シテ左様デゴザイマスルナラバ、此三十六條ノ二ト云フモノハ第二十三條ニ依ルトアリマスガ、若シ二十五條二十六條、二十七條等ノ場合ニ期限前ニ償還ノアツタ時ニハ如何サレル御見込デアリマセウカ、一應御尋イタシマス

〔政府委員阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(阪谷芳郎君) 御答イタシマスルガ、此二十五條、二十六條、二十七條ノ場合ハ、コチカラ要求イタス方ノ場合デ、二十三條トハ餘ホド違ヒマス、此場合ニ於キマシテハ別段ニ唯今政府ガ提出イタシテ居リマスルヤウナ必要ハ認メマセヌ、矢張り既定ノ方法デ處分ガ出來マスト考ヘマス

○木村誓太郎君 唯今ノ御答辯デハ、マダノ少シ分リ兼ネマス、政府ハ買

入消却スルノハ二十三條ノ場合ダケコソ許シテ居ルノデアリマス、サリナガラ二十五條、二十六條ノ二項、二十七條ト此場合ニ期限前ニ償還シテ來タトキニ、三十四條ノ第一項ノ但書ノ制限ヲ超過シタ場合ニハドウナサルカ、斯ウ云フノデス、其説明ヲ聞キタイノデス

〔政府委員阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(阪谷芳郎君) ソレハ御答イタシマスルガ、貸付金ノ超過シタ場合ニハ矢張り償還サセマスルノデス、別ニ此三十六條ノ二デ求メマシタヤウナ方法ニハ及バヌト考ヘテ居リマス、貸付金ト申シマスルモノハ他ニモ澤山ゴザイマスルノデスカラ、此場合ニ於キマシテ若シ積少デモ超過イタシマスレバ、之ヲ償還サセマスルトカ或ハ更ニ貸付チサセマスルトカ處分イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 採決イタシマス、念ノタメ諸君ニ申上ゲテ置キマスガ、第一ニ採決イタシマスノハ木村君ノ修正説、即チ「第三十四條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ」是ダケヲ採決イタシマス、木村君ノ修正説ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(公爵徳川家達君) 少數ト認メマス、削除説デアリマスカラ原案ニ付テ決チ採リマス

○富田鐵之助君 原案ハ、此修正説ガ原案トナツテ居リマスカ

○議長(公爵徳川家達君) 削除説ヲ採決イタシマスニハ原案ニ付テ採決イタシマスノガ先例デアリマス、ソレデ削除説ニ賛成デアアルナラバ原案ニ不賛成デアリマス、ソレガ先例ト議長ハ考ヘテ居リマス、議長ガ誤ツテ居リマスルナラバ御糾シテ請ヒマス

〔其通り〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 原案ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 是ニテ第二讀會ハ終リマシタ

○伯爵大原重朝君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

〔賛成〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 大原伯爵ノ直チニ第三讀會ヲ開クト云フコトニ御異存アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ直チニ開キマス、原案ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 是ニテ三讀會ハ終リマシタ

○議長(公爵徳川家達君) 次ハ議事日程第二十七、災害地租免除ニ關スル法律案、衆議院提出、第一讀會

災害地租免除ニ關スル法律案

右本院提出案及送付候也

明治三十八年二月四日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長松田正久

一府縣、數府縣又ハ北海道ノ全部若ハ一部ニ互レル水害、旱害、風害、霜害電害、虫害、氣候ノ不良其ノ他天災ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租ハ其ノ年分ニ限り之ヲ免除ス

前項ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ罹災後三十日以内ニ主務官廳ニ申出ツヘシ此ノ期間内ニ申出テサル者ハ免租ノ處分ヲ受ケルコトヲ得ス

本法ニ依リ免除シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス

本法ニ依リ被害調査中ハ地租ノ徵收ヲ猶豫ス

附則

本法ノ規定ハ之ヲ明治三十七年ヨリ災害ヲ被リタル田畑ニ適用ス

明治三十六年法律第三號ニ依リ既ニ延納ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ未納ノ分ニ對シ本法ニ依リ更ニ免除ヲ求ムルコトヲ得

前二項ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ三十日以内ニ申出ツヘシ

明治三十四年法律第二十七號及明治三十六年法律第三號ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

〔政府委員阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(阪谷芳郎君) 此災害地租免除法ニ付キマシテハ政府ハ反對ノ意見ヲ持ツテ居リマス、是ハ御承知ノ通り多年ノ問題デゴザイマシテ、其結

果屢、案ガ出テ屢、案ガ潰レタリ色クノ變遷ガゴザイマシタガ、先年延納處分法ト云フモノガ兩院ヲ通過シテ成立チマシテ災害ニ關スル處分ノ一段落ヲ告ゲマシタ、然ルニ今日又斯ノ如キ新法ヲ成立セシムル必要ハ毫無イノデゴザイマシテ、既ニ度々繰返シマシタ議論デゴザイマシテ、詳細ノコトハ申述ベル必要ハゴザイマセヌ、政府ハ本案ニ反對デゴザイマス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御發言モ御質問モ無イヤウデゴザイマスルカラ次ノ議事日程ニ移リマス、特別委員ノ選舉、此委員ノ選定モ議長ニ御任セニナリマスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者多シ

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ議長ガ選定イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 次ハ議事日程第二十九、國有土地森林原野下展申請期間ニ關スル法律案、衆議院提出、第一讀會

國有土地森林原野下展申請期間ニ關スル法律案

右本院提出案及送付候也

明治三十八年二月四日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長松田正久

國有土地森林原野下展法第一條ニ該當スルモノニシテ期間内ニ下展ノ申請ヲ爲ササリシ者ハ明治三十八年十二月三十一日迄ニ主務大臣ニ申請スルコトヲ得

〔政府委員和田彦次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(和田彦次郎君) 唯今議題ニナツテ居リマスル國有土地森林原野下展申請期間ニ關スル法律案ニ付キマシテ政府ノ意思ヲ一應辯明イタシテ置

カウト考ヘマス、是ハ衆議院カラ提出ニナリマシタ案デゴザイマシテ、政府ハ當初ヨリ此案ニハ同意スルコトヲ致シマセヌ、委員會ニ於キマシテモ反對ノ理由ヲ縷々述ベマシテゴザイマス、尙本會ニ於キマシテモ反對ノ理由ヲ述ベ

マシテゴザイマスガ、不幸ニ致シマシテ政府ノ意思ハ通ズルコトガ出來マセズシテ本院ヘ送付ニナリマシタ次第デゴザイマス、玆ニ政府ガ本案ニ反對イ

タシマス理由ヲ一言イタシマスルニ、此國有土地森林原野下展ノコトハ御承知ノ如ク明治初年地租改正ノ際ニ於テ誤ッテ官民有ノ區別ヲ紊シマシタモノ

ナ其後ニ於キマシテ理由正シキモノハ民間ニ戻スト云フコトニ成來ッテ居リ

スルノデゴザイマス、地租改正後明治二十三年頃マデ引續イテ地方長官ニ於テ理由正シキモノハ請願ニ基キ還付シ來ツタノデゴザイマス、此數十年間還付イタシマシタ末、明治二十三年ニ至リマシテ尙漏レガアツテハ其當人ニ對シテ甚ダ迷惑ヲ感ゼシムルコトデアルカラ、漏レノ無イヤウニ十分ニ鄭重ニ調ベルト云フ者ヲ以チマシテ、政府ハ明治二十三年四月ニ訓令第二十三號ヲ發布イタシマシタ、即チ若シ地租改正ノ當時誤ッテ官民有ノ區別ヲ紊ッテ居ルモノガアルナラバ、其事由ヲ附シテ申請スレバ還付シテヤルト云フ手續ヲ定メテ、數年ノ後ニ尙府縣ニ對シテ其事ヲ命ジマシタノデゴザイマス、而シテ其後引續イテ此事ヲ處分シテ、既ニ八箇年經過イタシマシテ、明治三十年ニ至リマシテ三度政府ハ各府縣ニ向ッテ省令ヲ發布イタシマシテ、從來取扱來ツタモノヲ尙鄭重ニ漏レナク取扱フヤウニト云フコトヲ通ジマシタノデゴザイマス、而シテ一方ニ於キマシテ國有土地森林等ノ整理モ十分ニ著手イタシマセンナラヌ氣運ガ至リマシタ故ニ、遂ニ明治三十二年ニ至リマシテ現今ゴザイマス所ノ土地森林原野下戻申請ニ關スル法律案ヲ發布イタシマシタ、其當時既ニ維新初年ヨリ扱ヒ來ッテ居ルコトデゴザイマスカラ、明治三十二年ノ十二月三十一日ヲ以テ期限トスルト云フ原案ヲ政府ガ提出イタシタ、然ルニ衆議院ニ於キマシテハ之ヲ少シ延長シテ明治三十三年六月三十日マデテ期限トスルト云フコトニ改メラレマシテゴザイマス、政府ハ其修正ヲ容レテ現行法ハ三十三年六月三十日トナツテ居リマス、而シテ此三十三年六月三十日ノ期限マデニ申請イタシマシタ數ハ二萬餘通ゴザイマシテ、尙其際ニモ申請ノ手續形式ニ於テ誤ガアル爲ニ之ヲ却下スルト云フコトガアツテハ如何ニモ民間ニ對シテ迷惑ヲ感ゼシムルカラ、ソレ等ノ手續形式ニ誤ガアルモノハ宜シクソレヲ示シテ期限後ト雖モ尙之ヲ取扱フベシト云フ訓令ヲ明治三十三年ノ十月ニ發シマシタ、斯様ニ下戻事件ニ付キマシテハ政府ハ十分ニ注意イタシテ、深切丁寧ニ今日マデ取扱ヒ來ッテ居リマス、然ルニ此衆議院カラ出マシタ所ノ理由ヲ見マスルト、下戻期間ガ短急ナルガ爲ニ申請期間ヲ失シタモノガ少クナイカラ延長シタイト云フ理由デゴザイマス、ガ決シテ短急デゴザイマセヌノデ、明治七八年カラ二十三年マデ之ヲ扱ヒ來ツタノデゴザイマスカラ、短急ト云フコトハ毫モ見出シマセヌノミナラズ、此上延長イタシマスル必要ハ無イト考ヘマス、尙一方ニ於テハ御承知ノ如ク國有土地森林ノ整理經營ニ著手イタシテ居リマシテ年々計畫ヲ進メツ、アル今日ノ場合デゴザイマス

ルカラ、此場合ニ尙之ヲ延長イタシマシテハ國有林ノ經營上ニ非常ノ差支ヲ致シマスル次第デゴザイマスルカラシテ、何卒御審議ノ上、本案ハ否決ニナルコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 次ノ日程ニ移リマス、特別委員ノ選舉、是モ委員ノ選定ハ議長ヘ御任セニナリマスカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ議長ニ於テ選定イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 次ハ議事日程第三十一、松村脩平君選舉爭訟ノ件資格審査委員長報告

貴族院議員松村脩平ニ係ル賄賂ニ因ル不法當選取消ノ訴ニ關シ本委員會ニ於テ資格審査ヲ終リ別冊ノ通り判決スヘキモノト議決候條此段及報告候也
明治三十八年二月八日

資格審査委員長

名村 泰藏

貴族院議長公爵徳川家達殿

貴族院議員當選無効ノ訴ニ對スル議決報告書

本訴ハ原告茨城縣鹿島郡中野村大字荒野三十七番地平民農貴族院多額納稅者議員互選人荒野由次郎ヨリ同縣結城郡宗道村大字新宗道四十番地平民農多額納稅者議員當選人松村脩平ニ對シ貴族院議員當選ノ無効ヲ訴出テタルモノナリ

原告請求ノ要旨

明治三十七年六月十日茨城縣ニ於テ貴族院多額納稅者互選會ヲ開カル、ヤ本件ノ被告即チ當時ノ議員候補者松村脩平ハ互選者タル幡谷仙之助ヲ買収セント欲シ同年同月同日水戸市泉町和泉屋太吉方ニ於テ被告指揮ノ下ニ水戸市泉町高安義次郎結城郡岡田村大字國生長塚源次郎東茨城郡小川町幡谷嘉久郎等ニ協商セシメ互選者幡谷仙之助ニ現金一千圓及額面一千圓ノ約束手形(振出人松村脩平、名宛人幡谷仙之助)ヲ賄賂トシテ交付シ被告ニ投票センコトヲ求メ幡谷仙之助ハ之ヲ認諾シ前記ノ金額及ヒ手形ヲ受取リタリ時ニ三十七年六月十日午前十時ナリトス幡谷仙之助ハ直ニ茨城縣廳ニ出頭シ前記ノ契約ニ基キ被告ニ投票シ而シテ互選會互選ノ結果被告ハ七票ヲ得

原告ハ五票ヲ得被告ハ貴族院多額納稅者議員ニ當選シタリ同月十一日水戸市芝田屋ノ二階座敷ニ於テ被告ハ隣室ニ控ヘ長塚源次郎高安義次郎幡谷嘉久郎石田寅次郎ノ四名同座シ前記一千圓ノ約束手形ニ對シ現金五百圓ヲ仙之助代理嘉久郎ニ交付シ殘金五百圓ヲ前同一ノ約束手形トシタリ被告ノ使用シタル前記ノ贈賄金ハ水戸市百四銀行ヨリ借入レタルモノニシテ結城郡水海町植田清五郎農工銀行頭取齋藤斐石田寅次郎等本件ニ干與セリ

右之事實ハ選舉ノ際賄賂ヲ行使シ投票ヲ求メタル犯罪行為ニ該當スルモノニシテ即チ被告ハ選舉ニ關シ輕罪ヲ犯シタルモノナリ如上ノ理由ニヨリ被告ハ當然貴族院多額納稅者議員互選人タル資格ヲ喪失シタルモノト謂フ可クシテ被告ノ當選ハ不法ニシテ無効タリ被告カ當選シタルコト不法ナル以上ハ次點者タル原告ハ當選者タルコト當然ナリト云フニ在リ

被告答辯ノ要領

原告ハ貴族院多額納稅者議員互選規則第七條ニ依テ本訴ヲ提起シタルカ如シト雖トモ同條ニ依ル訴ハ被告ノ犯罪ヲ原因ト爲サ、ルヘカラス

前記第七條ニ輕罪以上ノ罪ヲ犯シタルトキトハ原告カ刑法ニ觸ルルヘキ事實ヲ發見シタルヲ謂フニモ非ス亦原告カ被告ニ犯罪アリト認定シタルヲ謂フニモ非ス全ク被告カ相當ノ審理ヲ經テ有罪ノ判決ヲ受ケタルヲ謂フナリ選舉ニ關ルト否トヲ問ハス重輕罪ノ審判ハ司法裁判所ノ管掌ニ屬スルコトハ貴族院議員資格及選舉爭訟規則第八條ノ規定ニ徴スルモ亦明カナリ隨テ前記第七條ノ犯罪ノ有無ハ裁判所ノ審判ニ依リテノミ定メラルヘキモノナリ

貴族院多額納稅者議員互選規則第三乃至第六條ハ在職受刑其他ノ條件ノ存在中一時ノ失權即チ互選權ノ停止ニ係ル規定ナルモ尙ホ行政又ハ司法官廳ノ確然タル職權上ノ處分ヲ基トス然レハ永劫無期ノ失格ヲ命スル同第七條ハ反テ裁判所ノ判決ヲ要セス原告ノ認定ヲ以テ犯罪ノ有無ヲ決セシムルノ趣旨ナリトハ權衡上容レラルヘカラス解釋ナリ

被告カ賄賂行使ノ罪アリトシテ裁判所ノ判決ヲ言渡サレタリトハ原告ノ敢テ主張セサル所ナリ反テ原告カ被告ニ對シテ水戸地方裁判所檢事局ニ提起シタル告訴ハ檢事ノ採用スル所ト爲ラスシテ不起訴ノ決定ヲ受ケタルモノナリ

當選議員ノ資格ヲ否定スルトキハ貴族院ハ其位列ヲ停止シテ上奏スルノ定ニシテ其當選ヲ取消スヘキモノニ非ス而シテ原告ハ被告ノ當選取消ヲ請求ス

原告ノ所謂ユル立證ハ一個人カ隨意ニ作成シ得ヘキ書類ニシテ其所載亦多クハ傳聞ノ事實ニ屬ジ一モ證據トシテ視ルヘキモノニ非ス

以上ノ理由ニ因リ本訴ハ貴族院多額納稅者議員互選規則ニ副ハサルカ故ニ却下セラルヘキモノ否ラストスルモ本訴ノ請求ハ採容セラルヘカラスナルモノナリト云フニ在リ

議決ノ理由

原告ノ爭點ニ就キ之ヲ審案スルニ原告ハ被告松村脩平ハ選舉ノ際互選者タル幡谷仙之助ニ賄賂ヲ行使シテ投票ヲ求メタルモノニシテ即チ選舉ニ關シ輕罪ヲ犯シタル者ナルカ故ハ其當選ハ無効ナルコトヲ主張スト雖トモ普通犯罪ノ有無ヲ判定スル職權ハ司法裁判所ニ專屬スルモノナルコト我國ノ法制上毫無疑ナキ所トス故ニ貴族院多額納稅者議員互選規則第七條ニ所謂選舉人選舉ニ關リ輕罪以上ノ罪ヲ犯シタルトキトハ被告ノ答辯スル所ノ如ク司法裁判所ノ判決ニ依リテ輕罪以上ノ犯罪アリト判定シタル場合ヲ指スモノナルコト自ラ明カナル所ナリ而シテ原告ノ主張スル所ノ賄賂行使ノ事實ニ就テハ前後三回ノ告訴及ヒ告發アリシモ其犯罪事實ヲ認ムルニ足ルヘキ材料ナキヲ以テ孰レモ不起訴處分ニ及ヒタルコトハ内閣總理大臣ヨリ當院議長ヘノ覆牒ニ添付セル水戸地方裁判所檢事正代理檢事和田健兒ノ公文書ニ徴シテ明確ナリ之ヲ要スルニ原告ノ訴ハ適法ノ理由ナキモノナリ

上記ノ理由ニ基キ本件ハ左ノ如ク判決スヘキモノナリト議決ス

判決

貴族院ハ被告茨城縣選出多額納稅者議員松村脩平ノ當選ハ無効ニ非スト判決ス

〔名村泰藏君演壇ニ登ル〕

○名村泰藏君 松村脩平君ニ關スル當選訴訟ノ件ニ付キマシテハ數回委員會ヲ開キマシテ討議ヲ致シマシタノデアリマス、原告ノ申立ツル所ハ被告松村脩平ハ選舉ノ際互選者タル幡谷仙之助ニ賄賂ヲ交付シテ投票ヲ求メタルモノニシテ即チ選舉ニ關シ輕罪ヲ犯シタルモノナルガ故ニ其當選ハ無効ト云フノガ主張デアリマス、被告ノ答辯中ニハ貴族院多額納稅者議員選舉規則ノ第七

條ニ犯罪トアルガ、犯罪ノ其有無ト云フモノハ裁判所ノ審判ニ依ッテ定マルモノデアルト云フノゴザイマス、御承知ノ通り犯罪ノ有無ト云フモノハ司法裁判所ニ專屬スル所ノモノデアルト云フコトハ我國ノ法制上ニ於テ少シモ疑ノ無イ所デアリマス、貴族院多額納稅者互選規則第七條所謂選舉人選舉ニ關リ輕罪以上ノ罪ヲ犯シタルトキハト云フノハ被告ガ答辯スル如ク地方裁判所ノ判決ニ依ッテ輕罪以上ノ犯罪アリト判定スル場合ヲ指スモノナルコトハ明カナコトデアリマス、ソレカラ被告ノ答辯中ニ原告ガ被告ニ對シテ水戸地方裁判所檢事局ニ提出シタル告訴ハ檢事ノ採用スル所トナラズシテ不起訴ノ決定ヲ受ケタルモノナリト云フコトガアリマス、委員ニ於キマシテ斯ノ如キ何ガアルナラバ一應議長ノ手ヲ經テ政府ヘ此事ガ果シテ有ッタカ無イカト云フコトヲ問ウテ貫ヒマシタ所ガ、總理大臣ヨリ議長ニ當テタル覆牒ガアリマス、其覆牒ニ添附シタ所ノ水戸裁判所ノ檢事ヨリ公文書ガアリマス、其公文書ニ據リマスルト其事件ニ付テ三回ノ告訴告發ト云フモノガアリマシタガ、少シモ確カナル材料ト云フモノガ無キニ依ッテ不起訴ト致シタト云フコトヲ申シテ參リマシテゴザイマス、其水戸地方裁判所檢事正代理檢事和田健兒ト云フ人ヨリ申シテ參ッタノデアリマス、ソレニ依ッテ段々審議ヲ經マシタ所ガ原告ノ申ス所ハ適法ノコトガ無キモノデアアル、然ラバドウ之ヲ裁決スルカト云フコトニ推及シテ段々相談ヲ致シマシタ所ガ、是ハ前條ニ申上ゲル通りノ次第デアルカラ原告ノ敗訴ト決定スルガ相當デアラウト云フコトヲ決シマシテ、委員會デハ貴族院ハ被告茨城縣選出多額納稅者議員松付脩平ノ當選ハ無効ニ非ズト云フコトヲ決シマシタノデアリマス、ドウカ委員會ノ決議通りニ御贊成ヲ願ヒタウゴザイマス、ソレカラ一言申上ゲテ置キマスルガ、原告カラ辯駁書ヲズツト後ニナリマシテ寄越シマシテゴザイマス、此辯駁書ニ付キマシテハ五條ノ所ニゴザイマス「委員ハ必要ト認ムルトキハ原告被告ナシテ更ニ辯駁書及再答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得」斯ウアリマス、原告ガ此度出シマシタノハ委員會ヨリ辯駁書ヲ差出スヤウニ申付ケタノデモ無イ譯デアリマスカラ、其辯駁書ニ付テハ辯明ヲ與ヘマスト云フコトニ決シマシテゴザイマスカラ、チヨット御報道ヲ致シテ置キマス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御發言ガゴザイマセネバ採決ヲ致シマス、資格審査委員長ノ報告ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス、玆ニ於テ本日ノ議事ハ終リマシタ、先刻御委託ニナリマシタ特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス、書記官ナシテ朗讀ヲ致サセマス

〔小原書記官朗讀〕

古物商取締法中改正法律案外一件特別委員

侯爵大炊御門幾磨君 子爵松平 康民君 子爵梅小路 定行君
男爵島津 忠 欽君 男爵清水 資治君 德久 恆範君

馬屋原 二郎君 谷井 勘藏君 永澤 清之助君

北海道一級町村及二級町村ナシテ租稅外國庫歲入ヲ徵收セシムル法律案特別委員

伯爵清 樓 家 教君 子爵山内 豐誠君 三 浦 安君

淺田 德則君 男爵佐野 延勝君 男爵眞田 幸世君

岩村 兼善君 道源 權治君 下郷 傳平君

地租條例中改正法律案外一件特別委員

子爵長岡 護美君 子爵松平 乘承君 子爵舟橋 透賢君

子爵酒井 忠亮君 男爵野田 豁通君 男爵北大路 實信君

石井省一郎君 渡邊 福三郎君 宮本 谷藏君

輸入原料砂糖戻稅法中改正法律案外一件特別委員

伯爵柳澤 保惠君 子爵一柳 末德君 柴 原 和君

男爵金子 有卿君 古澤 滋君 宮島誠一郎君

三崎 龜之助君 佐々木嘉太郎君 村岡淺右衛門君

鑛業法案特別委員

子爵谷 干 城君 子爵平松 時厚君 男爵松平 正直君

男爵毛利 五郎君 男爵本多 政以君 武井 守正君

岡田 良平君 下條 正雄君 本間 千代吉君

遠洋漁業獎勵法改正法律案特別委員

侯爵細川 護成君 子爵渡邊 昇君 子爵松平 直德君

男爵船 越 衛君 村 田 保君 黑岡 帶刀君

男爵小早川 四郎君 谷森 眞男君 廣海 二三郎君

災害地租免除ニ關スル法律案特別委員

伯爵大原 重朝君 子爵本多 忠 敬君 男爵岩村 高俊君

男爵石黒 忠 惠君 男爵島津 珍 彦君 男爵高崎 安 彦君
男爵紀 俊 秀君 加藤 正 惠君 日 高 榮三郎君

國有土地森林原野下戻申請期間ニ關スル法律案特別委員
子爵鍋島 直 彬君 子爵裏松 良 光君 子爵永井 尙 敏君
男爵伊達 宗 敦君 男爵千秋 季 隆君 湯 地 定 基君

奥山 政 敬君 長尾四郎右衛門君 宮崎喜久太郎君
○議長(公爵徳川家達君) 次ノ議事日程ハ後ヨリ御通知ニ及ビマス、本日ハ

是ニ於テ散會ヲ致シマス
午後零時一分散會